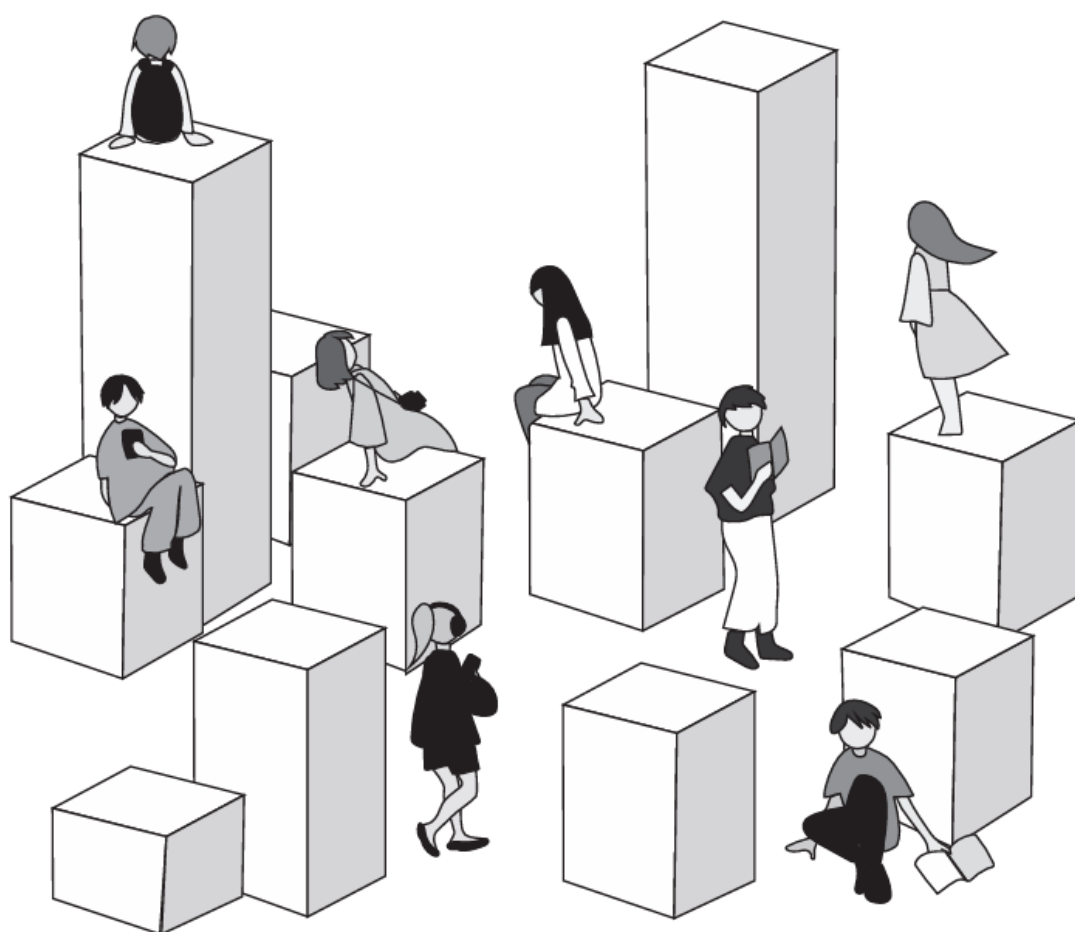


文学部

コース進級パンフレット 2026



早稲田大学生生活協同組合
進級パンフレット編集委員会

はじめに

コース進級の希望届提出の時期が迫ってまいりました。この時期の1年生のみなさんは、コース選択についていろいろと悩み、考えていることでしょう。

このコース進級パンフレットは、1年生が進級するにあたり少しでも不安を解消し、お役に立てればと作成されたものです。このパンフレットが、みなさんが各論系の魅力や特徴について知るきっかけとなり、自分の進む論系を決める上での参考になれば幸いです。

たくさん悩んで、自分が本当にやりたいことを見つけてください。このパンフレットを手にした方が、希望のコースに進めるよう願っております。

また、原稿作成に際しご協力いただいた各コースの先生方、ならびに文学学術院事務所の皆様、ありがとうございました。

早稲田大学生生活協同組合
進級パンフレット編集委員会

発行にあたって

- ◆ このパンフレットは、早稲田大学生生活協同組合が編集して発行しておりますが、各コース紹介ページにつきましては、主任の先生方宛に「アンケート」という形でご協力をお願いし、回答いただいたものをそのまま掲載させていただいております。
- ◆ 進級状況などの情報に関しましては、文学学術院事務所のご協力で掲載させていただきました。ただし、編集時点での情報となりますので、最新の情報や詳細につきましては、ホームページや学部の掲示板、オリエンテーションなどで必ずご確認ください。

このパンフレットに関して何かお気づきの点がございましたら、下記までお知らせください。

早稲田大学生生活協同組合 進級パンフレット編集委員会 事務局
Waseda-soshiki@univ.coop

目 次

- ◆ はじめに
 - ◆ 目 次
 - ◆ コース進級ガイダンス、進級状況
 - ◆ 教員より_コース紹介ページ
-
- ① 哲学コース
 - ② 東洋哲学コース
 - ③ 心理学コース
 - ④ 社会学コース
 - ⑤ 教育学コース
 - ⑥ 日本語日本文学コース
 - ⑦ 中国語中国文学コース
 - ⑧ 英文学コース
 - ⑨ フランス語フランス文学コース
 - ⑩ ドイツ語ドイツ文学コース
 - ⑪ ロシア語ロシア文学コース
 - ⑫ 演劇映像コース
 - ⑬ 美術史コース
 - ⑭ 日本史コース
 - ⑮ アジア史コース
 - ⑯ 西洋史コース
 - ⑰ 考古学コース
 - ⑱ 中東・イスラーム研究コース



詳細はホームページ

<https://www.waseda.jp/flas/hss/students/grades/>
学部掲示板、オリエンテーション等でご確認ください

コース進級ガイダンス、進級状況

◆ 進級ガイダンス・進級手続きスケジュールについて

学部 WEB サイト> 在学生の方へ> 成績・進級・卒業

<https://www.waseda.jp/flas/hss/students/grades/>

◆ コース別進級状況(2026 年度)

文学部		
コース	定員	進級者数合計
哲学コース	30	31
東洋哲学コース	15	15
心理学コース	75	77
社会学コース	75	75
教育学コース	30	30
日本語日本文学コース	75	76
中国語中国文学コース	15	15
英文学コース	75	75
フランス語フランス文学コース	30	30
ドイツ語ドイツ文学コース	15	14
ロシア語ロシア文学コース	15	7
演劇映像コース	45	46
美術史コース	45	45
日本史コース	45	45
アジア史コース	15	15
西洋史コース	30	30
考古学コース	30	30
中東・イスラーム研究コース	15	15
合計	675	671

○哲学コース○

1. コースの概要を教えてください。

哲学は、特定の個別的対象を研究する個別科学とは異なり、世界や人間を全体として考察することによって、私（たち）にとって世界がもつ意味や世界に生きる自己のあり方を探求する学問です。このとき、「対象・ことがら」を論じる自分自身が、思索の主体として重要な意味をもちます。すなわち、「自分で考える」ことが重要になります。

2. どのような研究ができますか？

哲学研究のフィールドは、二千数百年もの間に蓄積された哲学書です。しかし、それらを「文献」としてのみ読むのではなく、自分の「問い」に自分なりに「答え」を見出すことを目指します。したがって研究テーマは、古典哲学の研究から現代哲学の研究まで、さらには現代文化の諸事情にまで及びます。哲学コースの学生がどのような卒業論文を提出してきたかは、早稲田大学哲学会の機関誌『フィロソフィア』の巻末にある一覧表を参照してください。その多様さに驚くことでしょう。なお、『フィロソフィア』は図書館や哲学コース室にあります。

3. 他学部、他の論系／コースと比較して、他にはない特徴を教えてください。

文学部哲学コースは、哲学文献を読み抜く基礎力の育成に力を入れているとともに、何より「自分で考えること」を重視して、教員と学生、学生と学生の活発な議論を目指しています。また、古代・中世・近代・現代のすべての時代、英語圏・フランス語圏・ドイツ語圏の哲学を網羅しているところに特徴があります。

4. 演習で何が学べるか教えてください。

古代ギリシア哲学、中世哲学、近現代英米哲学、近現代フランス哲学、近現代ドイツ哲学に加え、論理学、倫理学、宗教学、美学、近代日本哲学も学ぶことができます。さらには、西洋思想史（1から5）を履修することで、哲学史全体を学ぶことができます。

5. 進級に際して、どの程度の知識があることが望ましいでしょうか？また必要になる学力や語学力を教えてください。

基本的には特別な準備を必要としていません。ただし、正解のない問いを問いぬく情熱と、必要になったときにその必要な語学を習得しようという気持ちはもっていて欲しいものです。

6. 卒業後の進路について、どのような進路または方面（メディア、出版、銀行、公務員など）に進んでいる学生が多いか、現在在籍している学生はどのような方面を希望しているかを、できたら具体的に教えて下さい。

教育・文化（教員・司書）、マスコミ（新聞、放送、出版）などに加え、公務員、商社、銀行、コンピュータ関連など。大学院進学者も少なくありません。

7. 推薦図書を各2～10冊程度ご紹介下さい。

①コースの特徴を掴むのにおすすめの本。

岩田圭一『アリストテレスの存在論——〈実体〉とは何か』早稲田大学出版部

岡崎佑香『ヘーゲル哲学と性』人文書院
 小林信之（訳）、W・ヴェルシュ『感性の思考——美的リアリティの変容』勁草書房
 小村優太（訳）、フランソワ・デロッシュ『コーラン——構造・教義・伝承』白水社
 西山達也（訳）、ジョン・サリス『翻訳について』月曜社
 西山達也ほか（訳）、ジャン＝リュック・ナンシー『イメージの奥底で』以文社
 御子柴善之（訳）『道徳形而上学の基礎づけ』人文書院
 御子柴善之『カント 実践理性批判』KADOKAWA
 御子柴善之『カント 純粋理性批判』KADOKAWA
 御子柴善之『カント哲学の核心——『プロレゴメナ』から読み解く』NHKブックス
 御子柴善之『自分で考える勇気——カント哲学入門』岩波ジュニア新書
 御子柴善之ほか（監訳）、キルステン・マイヤー『未来への負債——世代間倫理の哲学』人文書院
 村松聡『ヒトはいつ人になるのか——生命倫理から人格へ』日本評論社
 村松聡ほか（編）『教養としての生命倫理』丸善出版
 村松聡『つなわりの倫理学』KADOKAWA

②コースの推薦図書。

プラトン、三嶋他訳『ソクラテスの弁明 クリトン』講談社学術文庫
 デカルト、谷川訳『方法序説』岩波文庫
 カント、寺田訳『啓蒙とは何か』岩波文庫

8. その他、どのような学生が向いているか、などございましたらぜひご紹介ください。

あくまでも自主的に、自分で見つけた問題を探求することが大切です。世の中の風潮に容易に流されていくことにいくらかの抵抗を感じる人に、本コースは向いていると思います。

なお、哲学は二千年以上の歴史をもつ学問なので、そのフィールドは実に広大です。授業の枠内でそれらをすべて詳細に検討することは困難です。そこで、本コースの学生たちは、自主的に＜読書会＞を開催して、積極的に勉強しています。本コースは、そうした読書会のためにコース室利用を認めるなど、積極的な支援をしています。また、LA（ラーニング・アシスタント）による学習サポートも行っています。哲学コースの大学院生が決められた時間に 33 号館 501 号室で待機していますので、哲学の勉強や授業に関わることで何か分からないことなどがあれば、いつでも相談することができる体制が整っています。読書会、LA についての詳細は下記の本コースホームページを参照してください。

また、本コースを中心に早稲田大学哲学会という学会が形成されていて、研究発表会（7 月と 12 月）や、学会（7 月）を開催しています。学部学生もそれらを聴講することができます。

9. 卒業研究・ゼミ論・卒論のテーマを教えてください

2025 年度の哲学コース卒業論文題目は下記のとおりです。

アクセル・ホネットの承認論について

〈主体〉なき私に残るもの

非存在的対象としての数学的对象

前期ウィトゲンシュタインにおける幸福について

道徳判断はどのようにしてつくられるのか

芸術終焉論に対する解釈学的応答の可能性

冷淡なテキスト

動物の倫理について

カント倫理学における義務の意義について

未生世代への責任

汎心論と人工知能

アリストテレス『ニコマコス倫理学』における快樂について

ジャン＝リュック・ナンシーにおける神話と文学

ダンテ『神曲』における愛の関係性

テキスト理論と音楽

自由意志と道德的責任

ディープ・エコロジーについて

10. コースに関する問い合わせ先、および web の紹介。

33 号館 502 号室（哲学コース室）に助手さんがいるので、時間を合わせて質問などにお立ち寄りください。また、本コースのホームページ（<https://dpt-philosophy.w.waseda.jp>）もご参照ください。

○東洋哲学コース○

1. コースの概要を教えてください。

東洋哲学コースでは、アジアの思想・宗教を総合的に学べるようになっていました。南アジア（特にインド）と東アジア（特に中国・日本）を中心としたアジア諸地域の古典を読み解きながら、そこに述べられている思惟方法や世界観・自然観・人間観を探ります。また、現代のアジアや欧米における研究状況も視野に入れ、海外の研究者とも交流しながら研究を進めています。広汎な視点から各自の研究課題を設定できます。

2. どのような研究ができるか教えてください

インド哲学・仏教、中国の古代思想・儒教・道教・仏教、日本の仏教思想・仏教文化・神道・儒教・国学等、多彩な分野の研究ができます。例えば、インドの仏教、中国の儒教というような個別の思想は勿論ですが、地域横断的な思想伝播や、あるいは中国思想では儒・仏・道の三教交渉、日本思想では神仏習合のように複合的な分野も研究対象になります。

3. 他学部、他の論系／コースと比較して、他にはない特徴を教えてください。

東洋哲学という呼称は早稲田大学文学部の中で長く用いられてきた学問分類の一つです。アジアの思想は、広大・複雑・深淵ですので、一つの地域の思想を理解するだけでもかなり難しく、したがって、他の大学では、インド思想のみ、中国思想のみ、あるいは日本思想のみという形で特定の地域の思想に焦点を合わせて教育・研究を行う形態が普通ですが、東洋哲学コースでは、これらを同一のコースで総合的に学習・研究できるようにしています。東洋哲学コースは南アジア・東アジアを中心に、中央アジアも視野に入れたアジア諸地域の思想・宗教を同一の課程で学ぶことのできる、日本で唯一の編成になっています。また、東洋哲学の研究分野では日本が世界をリードしていますので、海外の研究者との交流も盛んです。東洋哲学全般を基礎として学びつつ、専門性を追究したい人に向いています。

4. 演習やゼミで何が学べるか教えてください。

二年生は春期に中国古代、秋期に日本古代についての演習、三年生は、春期・秋期を通じてインド哲学・中国哲学・日本宗教という三つの演習の（１）（２）を履修することが必修になっています。それぞれの分野の研究方法を習得することで、研究の基本を身につけることができます。卒業論文ではそれぞれのテーマを決めることになりますが、インド・中国・日本それぞれの思想の知識がどの分野でも関わってきますので、アジアの思想を幅広く学んでおくことは研究を進める上で大いに役立ちます。

5. 進級に際して、どの程度の知識があることが望ましいでしょうか？また必要になる学力や語学力を教えてください。

予備知識はあまり要求しません。学習と研究を推進する原動力は好奇心です。南アジア・東アジアのいずれかの地域の思想・宗教に興味を持つことが大切です。何か一つに興味があれば、東洋哲学コース進級後の学びにより自ずから興味や知識が深まってきます。そのことが問題意識の形成につながるでしょう。

研究に必要な基本的言語は漢文（古典中国語または和風漢文）と英語です。漢文の知識は進級の条件ではありませんので、進級後に読解力を養成することもできます。中国・日本思想の研究を志す人は東洋哲学の色々な講義・演習で読解力を増強することが可能です。中国思想に興味をもつ人は、現代中国語も学んでおくことが有益です。インド思想・インド仏教に興味をもつ人のためには、サンスクリット語のクラスが複数開講されていますので、段階的に学習するとよいでしょう。さらにチベット語を学ぶことも有意義です。

6. 卒業後の進路について、どのような進路または方面（メディア、出版、銀行、公務員など）に進んでいる学生が多いか、現在在籍している学生はどのような方面を希望しているかを、できたら具体的に教えて下さい。

教職や出版・ジャーナリズムの世界に進む者、図書館・博物館等の文化事業に従事する者、あるいは、一般企業で、習得した知識を活用し内外で活躍する者等がいます。大学院に進学して研究を継続する者も少なくありません。

在学生の希望は、その内容から言えばまさに多彩ですが、公務員、教員、執筆業、出版、進学、一般企業、メーカーというような分野が挙げられています。

7. 推薦図書を各2～10冊程度ご紹介下さい。

①論系の特徴を掴むのにおすすめの本。

②論系の推薦図書。

東洋哲学コースの推薦図書。

垣内景子著『朱子学入門』（ミネルヴァ書房、2015年）

土田健次郎著『儒教入門』（東京大学出版会、2011年）

大久保良峻編『日本仏教の展開—文献より読む史実と思想』（春秋社、2018年）

渡邊義浩著『儒教と中国』（講談社メチエ、2012年）

師茂樹『最澄と徳一 仏教史上最大の対決』（岩波新書、2021年）

Yamabe, Nobuyoshi, and Fumihiko Sueki, trans. 2009. *The Sutra on the Concentration of Sitting Meditation: Translated from the Chinese of Kumārajīva*. Berkeley: Numata Center for Buddhist Translation and Research.

専門領域についての推薦図書は、講義で紹介します。また、東洋哲学コースに関わる教員には多くの著作・論文がありますので、進級後にはそれらを読んで、研究する分野の知識を深め、また研究方法を学んで下さい。

8. その他、どのような学生が向いているか、などございましたらぜひご紹介ください。

東洋の思索的な文献を読みたい人に適しています。また、西洋哲学だけでは飽き足りない、人間の包括的な叡智の探求の歴史に関心のある方に、是非来て頂きたいですね。

9. 卒業研究・ゼミ論・卒論のテーマを教えてください

令和7年

王充「論衡」における批判と思想

明代宮廷における「造神」と観音信仰の再編

—万暦期の九蓮菩薩と道教的化身の比較研究—

如来蔵の九喩の再考察

サーンキヤ学派における世界構造の理解—因中有果論と二元論を中心に—

古代インドにおける仏教と医学

—『根本説一切有部律』『薬事』における医療行為を中心に—

瑜伽行派の空思想

『往生要集』における天台教学の検討

文献資料にみられる修験道の自己認識

退治される第六天魔王—『蘆雪本御成敗式目抄』の起請文注釈—

覚鑊と静遍の仏身仏土論について

智顗説・灌頂記『観音義疏』の研究

—天台と吉蔵の『法華経』注疏からの影響『ヨーガ・スートラ』のヨーガ実践

国体思想の道統

令和6年度

東寺講堂立体曼荼羅の構成原理と造立意図

『鍼灸甲乙經』の研究
『莊子』の思想について
『女青鬼律』の思想について
何承天の形神論について
アーラヤ識の段階的發展について
初期日本三論宗の仏身論
朱熹における心
『韓非子』の思想について
司馬承禎について
親鸞伝の出現と発展
親鸞思想の確立
儒教と経済を巡る議論
『論語』の政治性と合理性
兵書と地形
『荀子』の思想とその評価

令和5年度
親鸞における悪人正機説の考察
『莊子』における生と死
『公孫龍子』の思想
『莊子』に見える言語観
日本人の思考・行動様式とその背景に関する研究
有部アビダルマの言語観
『バガヴァッド・ギーター』における戦争観
平安・鎌倉時代の末法思想
民衆における古代神道の意義
日本における『万国公法』の受容について
鈴木大拙の霊性論
天武・持統朝における律令祭祀についての考察
『菩薩地』における gotra と prakṛti
『ヨーガ・スートラ』のヨーガ実践
『往生要集』における地獄と極楽の比較
『莊子』における生と死
ICT社会における唯識思想の可能性
『迴諍論』にみる龍樹の空思想
変成男子説と『血盆経』からみる女人
善鸞と関東門弟

令和4年度
児の聖性と性
日蓮宗における三十番神信仰変遷の意義
法然の思想とその特異性について
善鸞と関東門弟
大日如来と天照大神の習合に関する考察
空海教学における華嚴の受容
世親の三性説にみられる説一切有部の影響
儒教における伝統的な葬礼について
『日本霊異記』にあらわれた古代日本人の死生観

『老子』の聖人観について
闇斎学派の『詩経』観
識の生起について説一切有部と瑜伽行派の比較

10. コースに関する問い合わせ先および web の紹介。

東洋哲学コース室。第二研究棟(39 号館) 4 階 2419。TEL/FAX 03-5286-3701

<https://dpt-bun-totetsu.w.waseda.jp>

MyWaseda>Waseda Moodle>[文学部 進級ガイダンス関連資料](#)

により詳しい資料がありますので、参照して下さい。

東洋哲学コース教員 山部能宜

○心理学コース○

1. コースの概要を教えてください。

人の心の科学的理解を目指し、文献研究・観察・調査・実験など多様な方法で研究しています。

2. どのような研究ができますか？

人の心と関わる様々な研究を行えますが、指導教員ごとに研究方法は異なります。進級後は、2年生の最後に、どの指導教員のゼミに所属したいか希望を出していただきますので、それまでに具体的な研究内容や利用可能な装置などについて、各教員のホームページなどで確認しておいてください。

3. 他学部、他の論系／コースと比較して、他にはない特徴を教えてください。

人の心を科学的に解き明かすため、ただ論理的に考えるだけでなく、観察、調査、実験、計測、統計などの客観的・実証的な方法を用いることが一つの特徴です。また心の病を扱う臨床分野やMRI撮影では医学分野と連携したり、視線や脳波計測では計測装置を駆使したり、人の心の生物学的基盤を理解するため動物実験を行ったりなど、多様な側面から心に迫ることができます。

4. 演習やゼミで何が学べるか教えてください。

進級後にはまず実験・観察・調査・統計など、心理学の基礎を学んでいただきます。その際には、自分で研究を立案したり、論文を執筆する訓練を受けることもでき、心理学の幅広い教養を身に着けながら、各自の論理的思考、文章構成能力、データ処理能力などを伸ばすことができます。ゼミに所属する3年生以降は、少人数ゼミでの教員・先輩・後輩・同級生での共同作業を通して、チームワークのスキルを身に着けることもできます。心理学コースは、セミナー、合宿などのゼミ活動も盛んですので、2年間であっても密度が濃く、一生残るような大切な友人や思い出を作ることもできるかもしれません。なお、本コースでは、公認心理師資格取得に必要な科目の多くが用意されており、足りない部分を他学部などで補いつつ、公認心理師を目指すことができます。

5. 進級に際して、どの程度の知識があることが望ましいでしょうか？また必要になる学力や語学力を教えてください。

進級したら基礎的な方法論や知識を学べる必修授業が用意されていますし、さらに専門的な知識も教員から密接な指導を受けられますので、あまり心配する必要はないと思います。まずは英語の読解能力を高めておくのと論文で最新の知見を学習するために大きな助けになるでしょう。心理学は学際的な研究分野なので、進級後は幅広い知識や学力が求められる場面は多くなります。進路や専門が決まったら各自で必要な学習を進めていって下さい。

6. 卒業後の進路について、どのような進路または方面（メディア、出版、銀行、公務員など）に進んでいる学生が多いか、現在在籍している学生はどのような方面を希望しているかを、できたら具体的に教えて下さい。

その幅広い研究対象を反映して、心理学コースでは卒業後の就職先も多種多様です。心理学コースでは自然に論理的思考、データ処理、統計技能などが身につきますので、これらの教養や技能が就職活動でも役立っているようです。また、心理学の面白さに引き込まれて大学院へ進学する方も例年2割くらいいます。修士修了後となると進路はさらに幅広くなり、IT系・開発部門や専門職への就職も珍しくありません。家庭裁判所調査官・法務技官・児童心理士など心理学を生かした職に就く人もいます。

7. 推薦図書を各2～10冊程度ご紹介下さい。

西本武彦・大藪泰・福澤一吉・越川房子（編）テキスト 現代心理学入門 川島書店 2009
中島 義明、箱田 裕司、繁樹 算男（編） 新・心理学の基礎知識 有斐閣ブックス 2005
鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃・河内十郎（編）心理学 第5版補訂版 東京大学出版会 2020
スーザン・N. ホークセマ、バーバラ・L. フレデリックソン、ジェフリ・R. ロフトス、クリステル・ル
ッツ著 内田一成監訳 ヒルガードの心理学 第16版 金剛出版 2015

8. その他、どのような学生が向いているか、などございましたらぜひご紹介ください。

心理学コースでは学生の多様な個性を尊重して受け入れております。人の心に興味がある方、知的好奇心が旺盛な方、文理の枠にとらわれず未知の現象・原理に興味を持てる方なら、より楽しく研究を進められるかもしれません。

9. 卒業研究・ゼミ論・卒論のテーマを教えてください

詳しくは心理学コースのホームページや各教員のホームページをご確認ください。教員の専門としては心理学のあらゆる分野、知覚心理学、学習心理学、行動神経科学、行動薬理学、神経美学、感性心理学、言語心理学、社会心理学、心理統計学、臨床心理学、健康心理学、犯罪心理学、発達心理学、人格心理学、などが含まれます。

10. コースに関する問い合わせ先、および web の紹介

コースへの進級手続きやカリキュラムなどについては文学学術院事務所までお問い合わせください。心理学コースの教員や、コース進級後の活動については、以下のホームページも参考にしてください。

<https://psychol.w.waseda.jp/>



○社会学コース○

1. コースの概要を教えてください。

社会学は、「社会のしくみ」や「人びとの関わり方」を把握し、分析する学問です。私たちが当たり前のものとして経験している日常生活も、家族、学校、職場、地域、メディア、政治、経済など、さまざまな社会関係や制度によって形づくられています。社会学は、そうした日常の「当たり前」を問い直し、人と社会との関係を明らかにしようとしています。

たとえば、私たちが日々手にする衣服や食品は、世界各地の労働や資源利用とどのようにつながり、そこから生じる利益や環境負荷は、国や地域、社会階層のあいだでどのように分配されているのでしょうか。また、子どもの貧困、ジェンダー格差、外国人労働者への差別といった問題は、どのような社会関係や制度、歴史的背景のもとで生じているのでしょうか。社会学では、こうした問いについて、個人の経験だけに還元することなく、より広い社会の構造や変化との関係から考えます。

そのために、インタビュー、質問紙調査、統計データの分析、参与観察、文献や歴史資料の分析など、多様な方法を用います。社会学コースでは、社会を調べるための方法と、得られた情報を読み解くための理論の両方を学び、それらを往復しながら、現実の社会を多角的に考察する力を身につけます。

2. どのような研究ができますか？

身近な日常生活をはじめ、家族、教育、労働、地域、文化、メディア、政治、福祉、格差、差別、ナショナリズムなど、幅広い社会現象を研究対象にすることができます。

社会学の研究では、自分の関心を社会的な問いへと発展させ、先行研究や理論を学ぶとともに、インタビュー、質問紙調査、統計データ、文献、歴史資料などを用いて検討します。具体的な事実を調べることと、それを社会のしくみや人びとの関係から説明することは、互いに切り離せません。卒業論文は、こうした学びと研究の集大成となります。

3. 他学部、他の論系／コースと比較して、他にはない特徴を教えてください。

社会学コースの特徴は、身近な経験や社会問題を、個人だけの問題として捉えるのではなく、社会関係、制度、文化、歴史との関連から体系的に考える視点を学べることです。

また、社会を理解するための理論だけでなく、社会調査法、社会統計学、データ解析、社会調査実習などを通して、現実の社会からデータを収集し、分析する方法も段階的に学びます。講義、少人数の演習、社会調査の実習が相互に連動し、理論と実証、量的研究と質的研究の双方に触れながら学べるのが、社会学コースの大きな特徴です。

4. 演習やゼミで何が学べるか教えてください。

2年次の「社会学演習 1・2」では、少人数のクラスで社会学の文献を読み、発表や討論を行います。春学期の「演習 1」では主に古典的・理論的な文献を、秋学期の「演習 2」では現代的・経験的な研究文献を取り上げます。専門的な文献の読み方、自分の考えを整理して伝える方法、他者と議論する姿勢を実践的に身につけます。

3年次の「社会学演習 3・4」と4年次の「社会学演習（卒論）」（卒論演習）は、一般に「ゼミ」と呼ばれます。原則として3年生と4年生が合同で活動し、文献の精読、研究発表、討論、個人またはグループでの調査などを通して、それぞれの研究関心を深めます。3年次の「社会学演習 5」では、研究テーマや課題の設定、先行研究の検索・入手など、卒業論文の執筆に必要な基礎力を身につけます。こうした学びを積み重ね、4年次には各自が設定したテーマについて卒業論文を完成させます。

5. 進級に際して、どの程度の知識があることが望ましいでしょうか？また必要になる学力や語学力を教えてください。

進級時点で、社会学の専門知識を十分に身につけている必要はありません。身近な出来事から国内外の社会問題、過去の社会現象まで、幅広く関心を持ち、自分には当たり前に見えていることを自ら問い直そうとする姿勢が大切です。

社会学コースでは、多くの文献を読み、その内容を整理して、文章や口頭で表現します。また、他の

学生と議論し、社会調査を通してデータを収集・分析します。そのため、読むこと、書くこと、話し合うことに粘り強く取り組む姿勢が求められます。外国語で書かれた文献を読む授業もあるため、英語を中心とする外国語の読解力を継続的に高めていくことも望まれます。

6. 卒業後の進路について、どのような進路または方面（メディア、出版、銀行、公務員など）に進んでいる学生が多いか、現在在籍している学生はどのような方面を希望しているかを、できたら具体的に教えてください。

卒業後は、新聞・出版・放送などのメディア関連、マーケティングや調査機関、情報通信、製造、金融、サービス業など、幅広い分野に進んでいます。教員や国家・地方公務員となる卒業生もいます。また、大学院に進学し、社会学の研究を継続する道もあります。

社会学コースで培う、社会のしくみを多角的に捉える力、情報やデータを収集・分析する力、自分の考えを文章や口頭で伝える力は、さまざまな仕事や社会的活動に活用することができます。

7. 推薦図書を各2～10冊程度ご紹介ください。

①コースの特徴を掴むのにおすすめの本。

ジグムント・バウマン、ティム・メイ著、奥井智之訳『社会学の考え方〔第2版〕』ちくま学芸文庫
竹内洋著『社会学の名著30』ちくま新書

アーヴィン・ゴッフマン著、石黒毅訳『スティグマの社会学——烙印を押されたアイデンティティ』せりか書房

マイケル・サンデル著、鬼澤忍訳『実力も運のうち 能力主義は正義か?』早川書房

ロバート・D・パットナム著、柴内康文訳『われらの子ども——米国における機会格差の拡大』創元社

宮島喬著『多文化共生の社会への条件——日本とヨーロッパ、移民政策を問いなおす』東京大学出版会

②コースの推薦図書。

2年次の演習で近年講読した文献から、社会学の古典を中心に紹介します。

マックス・ウェーバー著、大塚久雄訳『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』岩波文庫

エミール・デュルケム著、菊谷和宏訳『社会学的方法の規準』講談社学術文庫

ゲオルク・ジンメル著、北川東子・鈴木直訳『ジンメル・コレクション』ちくま学芸文庫

タマラ・K・ハレーブ著、正岡寛司監訳『家族時間と産業時間』早稲田大学出版部

佐藤慶幸著『官僚制の社会学』文眞堂

このほか、MyWaseda 上の「必修基礎演習テキスト100」でも、複数の書籍を紹介しています。

8. その他、どのような学生が向いているか、などございましたらぜひご紹介ください。

社会学に向いているのは、身近な出来事や社会問題に関心を持ち、「なぜそうなっているのだろう」「別の立場から見たら、どのように見えるだろう」と考えてみたい人です。現在の自分の考えが完成している必要はありません。文献を読み、他者と話し合い、現実の社会を調べるなかで、自分の見方を問い直していく姿勢が大切です。

社会学コースでは、「読む」「話す」「調べる」「考える」という過程を往復しながら学びます。社会に関する幅広い知識を身につけ、量的・質的データを収集・分析する方法や、理論的に考察する力を習得していこうとする皆さんと、ともに学ぶことを楽しみにしています。

9. 卒業研究・ゼミ論・卒論のテーマを教えてください。

社会学コース卒業論文題目(2025年度)	
日本の若者の職場への定着と離職	SNSにおける疲れと利用意識
新宿ゴールデン街における外国人観光客へのまなざし	現代日本の高学歴若年者における努力主義に対する価値観の検討
カニエ・ウェストの歌詞に見るアメリカ社会	優位性の社会学
文系大学生における「インターンシップ」参加行為	現代日本のファッションにみる無彩色指向と社会的

と儀礼としての構造	アイデンティティ
森の息吹を阻むもの	地方出身学生の進路決定の要因
分断された援助評価制度の再構築	生成 AI と権力
若者の仕事観・生活観へのワーク・ライフ・バランス言説の影響	日本の大学における中国人留学生の友人関係の実態と規定要因
社会における排除／包摂の反復とマジョリティの責任	アメリカにおける日本人留学生の「人種化」と「アジア人」アイデンティティの生成
共学化の進展と男女別学の減少	平成レトロブーム研究
ココ・シャネルと女性像の変革	市民球団としての広島東洋カープの魅力
審美的価値の多様性とルッキズム	大都市高齢者の社会的孤立と地域特性
外国人児童の受け入れをめぐる社会的課題	部活動におけるヒエラルキー構造の実態
財閥炭鉱がたどった産炭地撤退過程	「子どもの貧困」と「体験格差」に対する民間支援の検討
人の移動と過疎	オンラインゲーム・コミュニティの組織的構造と「秩序」の維持
ファンと「推し」の権力構造	なぜ、大学生はよさこいにハマるのか
「おひとりさま女子」にみる「個」の確立と共生のあり方	コロナ禍後におけるワーキングホリデーの流行現象
鎌倉みんなの食堂からみる地域共生社会の要素	悪役表象の「バックステージ」化の論理
音楽フェスティバルにおける非日常性の検討	公共性からみる都市公園のゆくえ
「やらされる」勉強観と学びの意味の再考	大学生の宗教へのイメージに関する社会学的研究
いじめ自死の構造	産炭地における地域史教育の今後を考える
なぜ美的実践は「選択」として経験されるのか	人びとの移動と「故郷」・「ふるさと」
日本における〈華僑2世〉の結婚	現代の若者と政治参加
公務員任用における国籍要件をめぐる正当化の論理の検討	文化資本から見る「親ガチャ論」の検討
早稲田大学応援部の教育的意義	空間格差が生み出す教育機会の不平等
地域産業の文脈における定時制高校	大学進学による格差の再生産
就職活動対策が大学生の行動選択に与える影響	学校空間における〈他者〉の論理と共生
生徒と教師の恋愛	差別の契機
非正規雇用の功罪	ナイトカルチャーの現在地
涼山イ族におけるアイデンティティ再構築	日本における英語の「正しさ」とはなにか
伝統工芸における職人の自立化と協同組合の役割の変容	現代におけるリキッド消費と FoMO
「舞姫」を囲む人びと	愛媛〈一杯船主〉の社会史
小学校高学年児童における社会的規範の習得	「自己投資」として再解釈される美容整形
嫌韓感情と K-POP の関連性	移動がもたらすことばの選択
生きづらさと若者たち	地域振興におけるロックフェスの可能性
クールジャパン政策による日本イメージ変化の可能性と限界	アイヌ民族への認識とその背景の社会学的考察
若年層の投票を規定する要因についての社会学的検討	理想の最期の迎え方

10. コースに関する問い合わせ先、および Web の紹介。

社会学コース（学部）Web サイト

<https://dpt-sociology.w.waseda.jp/courseinfo-u/>

○教育学コース○

1. コースの概要を教えてください。

定員は30名。コース所属の専任教員の専門分野は、学校教育、教育哲学、教育社会学、大学教育論、人権教育、社会教育、教育とジェンダーなどで、それらの分野にかかわる科目が設けられています。ほかに、文化構想学部所属の教員の協力を得て、教育福祉論などの科目も設置しています。また、教育心理学、障害と教育、生涯学習論などに関する科目もあります。

2. どのような研究ができますか？

学生のみなさんは、教育格差、いじめ、不登校、子どもの貧困、子育て支援、ジェンダーやセクシュアリティ、多文化共生など、学校教育、社会教育、家庭教育の多様な領域、幅広い分野のテーマについて研究に取り組んでいます。それらを、演習において共同で研究するとともに、ひとり一人が卒業論文のテーマとして取り組んでいます。

3. 他学部、他の論系／コースと比較して、他にはない特徴を教えてください。

学年配当のある必修演習は2年春学期から3年秋学期まで設置され、グループでの学習だけでなく友人関係を構築する機会となっています。また、コースの選択演習は2年生から4年次までが履修し、学年を越えて学ぶことができるだけでなく、同一教員が担当し複数学年の履修者からなる選択演習を履修し、個人としてテーマを絞った学習を続けることも可能です。4年次では、選択演習と卒論演習を通じて、グループでの学習活動と個人での研究活動を行います。なお、教員も参加しての合宿や卒論発表会などの行事にも力を入れています。

4. 演習やゼミで何が学べるか教えてください。

必修演習では教育学の基礎と多様な領域からなる教育学の広がりや教育学調査法などを学ぶことになります。選択演習では、教育哲学、大学教育論、人権教育論、社会教育などのテーマでさまざまな演習が展開されています。フィールドワークなどを組み込んだ演習もあります。2～4年生が一緒になって研究に取り組んでいます。

5. 進級に際して、どの程度の知識があることが望ましいでしょうか？また必要になる学力や語学力を教えてください。

知識や語学力はあるに越したことはありませんが、それよりも、教育や広く社会に関して明確でしっかりとした問題意識が重要であることを強調したいと思います。

6. 卒業後の進路について、どのような進路または方面（メディア、出版、銀行、公務員など）に進んでいる学生が多いか、現在在籍している学生はどのような方面を希望しているかを、できたら具体的に教えてください。

大半は一般企業や官公庁に就職しますが、教員になる人や大学院に進学する人もいます。演習での学習を活かして、メディアやNPO、大学教職員として教育に関わる様々な分野で活躍している方がいます。

7. 推薦図書を各2～10冊程度ご紹介下さい。

①コースの特徴を掴むのにおすすめの本。

J. デューイ『学校と社会』岩波文庫

②コースの推薦図書。

- ・山本正身『日本教育史：教育の「今」を歴史から考える』慶應義塾大学出版会、2014年
- ・村田晶子・森脇健介・矢内琴江・弓削尚子『ジェンダーのとびらを開こうー自分らしく生きるために』大和書房、2022年

8. その他、どのような学生が向いているか、などございましたらぜひご紹介ください。

学びたいテーマをしっかりと持っている学生さんが進級してくることを期待しています。

9. 卒業研究・ゼミ論・卒論のテーマを教えてください

演習の多くで年度末に向けて論文をまとめていくことになります。そのテーマと関係している課題でも、自分自身がもともと持っていた問題意識を深めた課題でも、教育に関わる課題であれば卒業論文のテーマとなります。したがって、幼児教育、学校教育や成人教育まで、ジェンダーから地域の課題まで、テーマも研究方法も多様です。戸山図書館で『早稲田教育学研究』という雑誌を探してください（雑誌ワ 140）。その巻末に当該年度の卒論題目がずらりと掲載されていますので、参照してください。また、前年度の優秀な卒論2～3編の梗概も掲載されています。

10. コースに関する問い合わせ先、および web の紹介。

何か質問がありましたら、コース運営主任の沖清豪宛にメールをお寄せ下さい。

okikiyo@waseda.jp

HP に、コース生の多様な時間割やこれまでの卒論タイトル、進級を考えている1年生へのメッセージなどを掲載しています。他にも教育学コースの魅力をたくさん紹介していますので、是非ご覧ください。

教育学コース HP

<https://buneducation.wixsite.com/website-1>



QR コード

以上

○日本語日本文学コース○

1. コースの概要を教えてください。

日本語と日本文学に関するあらゆる領域について、基礎的な知識を得るとともに、各自の関心のある領域について、深く分析・研究・批評する力を養います。日本のことばと文学を体系的に追究したいと考える人にとって最適のコースです。

2. どのような研究ができますか？

日本語学では、文字・語彙・音韻・文法・方言などの諸分野を広く学べます。日本文学では、古代の『万葉集』や中古（平安）の『源氏物語』から、中世・近世・近代、そして現代にいたる、あらゆる時代・ジャンルの文学作品や作家などを考察対象とすることができます。言語や作品・作家を通して、日本文化の本質を理解するとともに、新しい文化を創出する方向性をも探ることになるでしょう。

3. 他学部、他の論系／コースと比較して、他にはない特徴を教えてください。

日本語と日本文学のすべての領域について体系的に学ぶカリキュラムを編成し、提供しているのは、文学部においては本コースのみです。文化構想学部にも、関連するプログラムが設置されている論系がありますが、あくまでも日本語・日本文学に特化している点、基礎から専門まで体系的に学ぶ形になっている点が本コースの特徴です。教育学部の国語国文学科は、本コースに近いコンセプトをもちますが、どちらかといえば国語教育が主体となります。

文学学術院には関係する教員が多く、その教育・研究体制は非常に充実したものとと言えます。多様なブリッジ科目等と組み合わせることで、独自に新しい研究領域を開拓・展開することも可能です。

4. 演習やゼミで何が学べるか教えてください。

コースに進級した2年次には、古典文学・近現代文学・日本語学という3つの演習が春秋各期に必修です。日本語日本文学を体系的に学ぶために重要となる3大分野のそれぞれについて、調べ、考え、発表し、討論を行なうスキルを身につけます。3年次には、上記から各自が関心をもつ分野を1つにしぼり演習を選択します。4年次には卒論演習が設置されており、担当教員による個別的な指導が行なわれます。なお、本コースでは、大学院生も含めた学生による自主的な研究班活動（一部は専門特殊研究として提供）が盛んであり、夏期合宿も行なわれています（2026年度は中止しました）。

5. 進級に際して、どの程度の知識があることが望ましいでしょうか？また必要になる学力や語学力を教えてください。

日本語や日本文学に対する強い関心があれば、特に絶対必要とされるような要件はありません。ただし、いろいろな「学び」に関心を広げていく態度は大切だと思います。

6. 卒業後の進路について、どのような進路または方面（メディア、出版、銀行、公務員など）に進んでいる学生が多いか、現在在籍している学生はどのような方面を希望しているかを、できたら具体的に教えて下さい。

コースに特徴的な職種としては、中学・高校の国語科教員や司書教諭があります。また出版やマスコミ関係への志望者が比較的多く、実際に就職してもいます。大学院進学を志す人には推薦入試の制度もあり、博士後期課程においては、コロンビア大学やUCLAへの留学プログラムもあります。本学の大学院進学後、大学教員となっている人も少なくありません。

7. 推薦図書を各2～10冊程度ご紹介下さい。

①コースの特徴を掴むのにおすすめの本

高松寿夫『柿本人麻呂 コレクション日本歌人選』（2011 笠間書院）

寺田澄江・陣野英則・木村朗子編『身と心の位相 源氏物語を起点として』（2021 青簡舎）

田代圭一、山中悠希、和田琢磨編『変体がなで読む日本の古典』（2016 新典社）

池澤一郎『江戸時代 田園漢詩選 (人間選書 246)』 (2002 農山漁村文化協会)
坪井秀人『戦後表現 Japanese Literature after 1945』 (2023 名古屋大学出版会)
鳥羽耕史『安部公房 消しゴムで書く』 (2024 ミネルヴァ書房)
鈴木貴宇『〈サラリーマン〉の文化史』 (2022 青弓社)
ロバート・キャンベル、十重田裕一、宗像和重編『東京百年物語』全三冊 (2018 岩波書店)
森山卓郎『日本語の〈書き〉方』 (2016 岩波ジュニア新書)

②コースの推薦図書

河野貴美子他編『日本「文」学史』全三冊 (2015-2019 勉誠出版)
国文学研究資料館編『古典籍研究ガイダンス 王朝文学をよむために』 (2012 笠間書院)
上野誠編『短歌を楽しむ基礎知識』 (2024 角川書店)
ハルオ・シラネ他編『世界へひらく和歌』 (2012 勉誠出版)
十重田裕一他編『検閲・メディア・文学』 (2012 新曜社)
三原芳秋・渡邊英理他編『クリティカル・ワード 文学理論 読み方を学び文学と出会いなおす』
(2020 フィルムアート社)
森山卓郎『ここからはじまる日本語文法』 (2003 ひつじ書房)
金水敏『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』 (2003 岩波書店)

8. その他、どのような学生が向いているか、などございましたらぜひご紹介ください。

書物を読むこと、考えることが好きな人。日本の文化に興味・関心の深い人。自分なりの視点を大切にする人。

9. 卒業研究・ゼミ論・卒論のテーマを教えてください

【日本語学系】JPOP 歌詞についての文体分析、化粧品広告における質感表現、会話の中の情報の共有過程について、現代日本語における「数詞+助数詞」の発音、映像作品における「女ことば」の役割、振り仮名の機能について、熊本方言におけるアスペクト表現についての研究、複合形容詞の研究、
【古典文学系】『古事記』上巻における「神」と「命」、大伴坂上郎女論、『枕草子』におけるフィクション性、「長恨歌」引用からみる『源氏物語』、『蜻蛉日記』贈答歌論、中世軍記物語における「乳母子」の研究、上田秋成「菊花の約」論、日本古典文学に見る狐と稲荷神の習合の過程、
【近現代文学系】日本におけるスペイン・インフルエンザの文学的表象序説、朝井リョウ「何者」私論、綿矢りさ作品論、村上春樹が描く個人、大江健三郎初期作品研究、開高健における広告と文学、太宰治の戦争文学論、江戸川乱歩文学の現代性、横光利一の女性表象、川端文学における〈感覚〉と〈美〉、谷崎潤一郎試論、田山花袋論、夏目漱石作品における「女性」、樋口一葉作品論、など。

10. コースに関する問い合わせ先、およびwebの紹介。

コース室は第二研究棟 39 号館 5 階 2519 研究室。2026 年現在、火曜日 12:00-17:00・水曜日 12:50-17:00、木曜日 12:00-16:00、木曜日 12:00-16:00、金曜日 12:00-17:00 に開室しています。今後の状況によって、変更する可能性があります。

コース HP「日語日文」の URL は <https://dpt-bun-nihon-go-bun.waseda.jp/>

○中国語中国文学コース○

1. コースの概要を教えてください。

言語から文学・文化まで、古代から現代まで、総合的に中国の豊かな文化事象について学習し、研究します。中華人民共和国だけでなく、台湾、香港、マカオ、シンガポールや海外の華僑・華人文化について関心を広げることができます。

日中関係に止まらず、国際的にも、中国を理解することは、今日たいへん重要になっています。表面的な報道や断片的な情報に頼っていては、中国で起きている様々な問題や現象について真に理解することはできません。正しく理解するためには、激動する中国の現実深く切り込むとともに、数千年の歴史を持ち、連綿と現代につながっている伝統文化や、中国の人々の精神を深く理解することが欠かせません。

また、中国文化にアプローチすることは、中国一国を知るだけでなく、アジアの国境を越えた文化の歴史や広がり、その多様性を考えることにもつながります。

中国語中国文学コースでは広く深い学習を通じて、高度で良質な中国語の運用能力と、深い中国理解を持ち、これからの世界を切り開いていく人材を養成することを目指しています。

2. どのような研究ができますか？

古代から現代まで、語学、文学、文化の様々なジャンルやテーマの研究が可能です。言語については音韻、語彙、文法、方言及び中国語の教授法等、最新の研究成果に基づいた研究が可能です。また文学・文化では、各時代の詩文（李白や杜甫など）や小説（「三国志演義」「水滸伝」「西遊記」など）のほか、伝統習俗、演劇芸能、近現代文学（魯迅、莫言など）、映画、ドラマ、サブカルチャー等、広く学生の関心に応じた研究をすることができます。日中や日中韓の比較文化研究も可能です。

3. 他学部、他の論系／コースと比較して、他にはない特徴を教えてください。

1年次で身につけた中国語の知識や運用力を更に伸ばすには最適な環境です。小人数で親しみやすいコースですので、教員の指導もきめ細かく行き届き、専門演習や卒論等学生の意欲に十分に答えることができます。また、交換留学・TSA・ダブルディグリープログラム等で中国へ留学する人も多く、様々なアドバイスや情報が身近に得られるでしょう。中国でのインターンシップや、中国の学生との交流、短期語学研修プログラムも設けられています。復旦大学中文系および台湾大学中文系との独自の箇所間協定による留学も実施しています。留学中の取得単位は中文コースの卒業単位として振替ができます。毎年、8月初旬にはセミナーハウスで課外合宿を行い、中国語パフォーマンス大会やキャリア形成のワークショップを開いています。就職・留学・進学・卒論等についても相談できます。合宿の他にも、学年の壁のないアット・ホームなコース全体の交流の機会がたくさんあります。知らず知らずのうちに皆と顔見知りになって、それぞれの個性を尊重しながら、交流ができていく居心地のよさがあると思います。演習は週2回のクォーター制で集中的に学び、講義はフルオンデマンドで、学びたい時間帯に視聴できる、というようにメリハリのついたカリキュラムを取っています。

4. 演習やゼミで何が学べるか教えてください。

古代文学、近世文学、近現代文学・文化、中国語文法論、中国語音韻論、中国語教授法等、語学、文学・文化ともに古典から現代まで、バランスよくカリキュラムが組まれています。

5. 進級に際して、どの程度の知識があることが望ましいでしょうか？また必要になる学力や語学力を教えてください。

研究テーマに何をを選ぶにせよ、中国語の能力が必要なことはいまでもありません。そのため1年次に基礎力を身につけておくことはとても大事なことです。あとは専門知識というより、自分の興味や関心のある分野、作品、事象等があれば、それを軸にしてテーマを決め、専門に研究していくことができるでしょう。

6. 卒業後の進路について、どのような進路または方面（メディア、出版、銀行、公務員など）に進んでいる学生が多いか、現在在籍している学生はどのような方面を希望しているかを、できたら具体的に教えて下さい。

中国語を学んだ学生、それも中国の深い文化をよく知る学生に対する社会各方面からの要請がますます強くなっています。IT 関連、マスコミ、商社、出版社、書店、メーカー、金融、公務員、研究職、中学・高校教員、大学院進学など多方面にわたっています。作家や漫画家、芸能の道に進んだり、中国語を活かして警察や法曹関係へ進んだ卒業生もいます。

7. 推薦図書を各 2 ～ 10 冊程度ご紹介下さい。

①コースの特徴を掴むのにおすすめの本。

②コースの推薦図書。

岡崎由美 『漂泊のヒーロー 中国武侠小説への道』 大修館書店
紺野達也 王維『輞川集』の研究 研文出版
高屋亜希 『チャイニーズ・カルチャー・レビュー』（監訳）好文出版
楊達 『パソコンで中国語を学ぶ』 南雲堂
稲畑耕一郎『皇帝たちの中国史 連鎖する「大統一」』 中央公論新社
杉本達夫 『日中戦期 老舎と文藝界統一戦線 大後方の政治の渦の中の非政治』 東方書店
千野拓政 『東アジアのサブカルチャーと若者のこころ』（編著）勉誠出版
内藤正子 『中国語研究 ことばの性相』 白帝社
古屋昭弘 『張自烈『正字通』字音研究』 好文出版

8. その他、どのような学生が向いているか、などございましたらぜひご紹介ください。

中国文化に関心のある人はもちろん、特にやりたいことが決まっていなくても、学ぶ意欲のある人は歓迎します。“集まり散じて人は変われど、仰ぐは同じき理想の光”。中文にもいろいろな人がやって来て互いに学んで行きました。少人数ですが、個性はさまざま、多様な人材が集まっています。皆さんにも素晴らしい出会いがあることでしょう。専門研究を通して、自分の個性を磨き、能力を十分に発揮して下さい。

9. 卒業研究・ゼミ論・卒論のテーマを教えてください。（2025 年度）

○文学研究（作品論、作家論、比較文学など）：「『水滸伝』における賭博文化について」、「台湾絵本作家幾米の作品受容研究」、「閻連科作品における“死”の考察—『丁庄の夢』を中心に—」、張愛玲の『半生縁』における女性像の考察」

○中国語学および中国語教育：「日本における華人の言語意識—中華学校エスノグラフィー—」

○映画、演劇、芸術など：「『西遊記』映像作品におけるキャラクターの比較—1986 年 CCTV 版と 1978 年日本テレビ版を中心に—」、「異文化表象としての“チャイナガール”」

○文化研究（メディア、社会事象など）：「文学からインターネットへ—上海「魔都」イメージの越境的再構築と伝播—」、「中国の推し文化について—飯圈文化を中心として—」、「独立と思想」、「戦後台湾の桃園神社保存に見る歴史館」

10. コースに関する問い合わせ先、および web の紹介。

中国語中国文学コース専修室 39 号館 4 階 2420

問い合わせメーリングリスト chubuncourseroom@list.waseda.jp

ホームページ <http://waseda-chubun.com/>

中国語中国文学コース教員 岡崎由美

○英文学コース○

1. コースの概要を教えてください。

現在、英語は小学校でも学ぶようになり、コミュニケーションの手段として世界の共通言語になっています。英文学コースでは、こうしためまぐるしく変わる世界の中で、時代に応じた英語のスキルを高められるとともに、英語圏の文学（英語で書かれた文学すべて）や英語教育を学問大系に基づいて基礎から学ぶことができます。定員75名、教員8名の、文学部の中では規模の大きいコースのひとつです。演習のクラスは英語でテキストを読む科目が多いですが、小説・詩・演劇のほか、批評、第二言語習得、英語教育、英語論文の書き方などの科目があります。伝統的な学問を重視しつつ、科目群は現在の新しいイングリッシュ・スタディーズに対応していますので、体系的に学問ができるようになっています。また、演習科目も学生のみなさんが希望に従って選択できるシステムになっています。

2. どのような研究ができますか？

文学も社会や歴史の中にあるものなので、英文学コースでは（英語圏という範囲での）〈人間〉に関わるすべてを扱うと言えます。心理や感情、生き方や倫理、美的感受性、思想や哲学、異文化接触、政治、社会、人種、ジェンダー、歴史、想像力の働き方、「言葉とは何か？」「世界とは何か？」「人間とは何か？」といった問題を最高の言語表現を通じて考えることができます。シェイクスピアから現代社会まで、幅広い時代を見渡しながら、卒論では、英語教育や文化に関わるものも含めて、自分のやりたいテーマを自由に決めることができます（卒論は、英語・日本語どちらで書いてもよい）。

3. 他学部、他の論系／コースと比較して、他にはない特徴を教えてください。

どちらかと言えば、教育学部の英語英文に比べれば文学寄り、国際教養に比べれば日本語を重視して、日本語と英語の〈あいだ〉で思考する特色があります。また、教員には翻訳の仕事をしている人が多いことも特色でしょう。文学部の他のコースと比べれば、英語圏の文学・文化・英語全般を扱うという意味からも、科目のパラエティや卒論のテーマ選択の幅広さからも、最も自由度が高いコースだと言えると思います。それに、何といても、英語を読んで、英語で書く量は他の論系／コースとはくらべものにはなりません。すべて英語で行われる科目もありますから、世の中で必要とされる英語の運用力を身につけたいなら、英文学コースをおいて他にないでしょう。

4. 演習やゼミで何が学べるか教えてください。

小説・詩・演劇といった文学ジャンル別の入門的な科目から、時代や地域ごとの文学、ルネッサンス・ロマン主義・モダニズム・ポストモダン・コロニアリズム/ポストコロニアリズム・エスニシティといった重要なキー概念、英語教育、さらには苦手とする人も多い英語論文の書き方もしっかりと学べます。少人数で行われる4年生の「卒論ゼミ」（毎週）を重視しており、発表や教員との対話などを通じて卒論を確実に完成できます。

5. 進級に際して、どの程度の知識があることが望ましいでしょうか？また必要になる学力や語学力を教えてください。

進級前に特別な知識を要するということはありません。1年の英語の授業に普通についてゆける程度で十分です。英語のテキストを読むことが多くなるので、英語はできる方がいいとも言えますが、要は進級してからの「意欲」があれば、英語力はあとからついてくるものです。専門に関しては、むしろ「知識」というより、英語圏のフィクションや文化現象について、いきいきした好奇心と何かを「感じる」ところ（感性）を持ててもらえればと思います。

6. 卒業後の進路について、どのような進路または方面（メディア、出版、銀行、公務員など）に進んでいる学生が多いか、現在在籍している学生はどのような方面を希望しているかを、できたら具体的に教えて下さい。

過去2年間の卒業生の状況を見ますと、数で言えば一般企業（銀行、商社、小売業など）が多く、出

版・広告などのマスコミ系、さらには、国家公務員、地方公務員になる人もいます。昔に比べると少なくなっただけとはいえ、中学・高校の英語教員になる人たちもいます。また、大学院へ進学する人もいます。

7. 推薦図書を各2～10冊程度ご紹介下さい。

①コースの特徴を掴むのにおすすめの本。

②コースの推薦図書。

シェイクスピアの『ロミオとジュリエット』やエミリー・ブロンテの『嵐が丘』、メルヴィルの『白鯨』、オーウェルの『1984年』など、知っているようで、きちんと読んでいなかった本をぜひ読んでみて下さい。まずは翻訳でもいいのです。『ハリー・ポッター』や『クマのプーさん』などの児童文学も実はじっくり読むと「文学」として非常に深く面白い発見があるはずです。

8. その他、どのような学生が向いているか、などございましたらぜひご紹介ください。

知的な好奇心があり、学んで深く知っていくことに喜びを感じられる人、なにか自分が「好き」なものを持っている人、本を読むことが好きな人、本でも物事でも初めて触れるものに対し、柔軟な感性を持っている人。

9. 卒業研究・ゼミ論・卒論のテーマを教えてください。

参考までに、考えられるテーマを羅列します―「日本の英語教育の課題」、「小学校における英語の教育導入について」、「映画化されたシェイクスピア」、「ガヴァネス小説：『虚栄の市』と『仮面の陰で』の比較」、「ボウの探偵小説研究」、「ホーソーンの『緋文字』における法と自由の問題」、「『白鯨』の邦訳の比較研究」、「イギリス小説における植民地表象」、「ブレイクの預言書研究」、「エミリー・ディキンソンの引きこもりのストラテジー」、「19世紀イギリス小説における少女表象」、「人種差別とアメリカ文学」、「*Lilith*の平行・ワールドの構造」、「日本人はなぜ『赤毛のアン』が好きか」、「J・D・サリンジャーにおける狭小空間」、「モダニズムと南部小説」、「ビートとボブ・ディラン」、「Joy Kogawa, *Obasan* 研究」、「ダンテとシェイマス・ヒーニー」、「SF映画における反近代表象」、「フランク・オハラにおける「空虚」な主体」、「ニューヨークの公共空間について：現状と歴史」、「ジョージ・オーウェルの左翼全体主義批判」等々。

10. コースに関する問い合わせ先、およびwebの紹介。

英文学コースの部屋が33号館5階(503)にあり、助手やTAの院生がいます。どんな質問でも、気軽にしてみてください。

(英文学コース web ページ：<http://waseda-buneibun.com/>)

○フランス語フランス文学コース○

1. コースの概要を教えてください。

フランス語とフランス文学を深く学べるコースなのは当然ですが、それだけではありません。フランス語圏を中心にして、美術、映画、演劇、思想など、文化のあらゆる側面を掘り下げることのできるのが仏文です。「選択外国語」のなかの「フランス語で表現する」、「フランス文化を知る」などの授業も（必修科目ではありませんが）コースの単位に組み込まれていて、「とにかく語学という武器を身に着きたい」という人にも最適でしょう。

2. どのような研究ができますか？

フランス文学・語学について研究できるだけでなく、フランス（語圏）に関係するあらゆる文化が研究範囲。卒論のテーマは、文学、語学、思想、美術、演劇、映画、ファッション、料理、社会問題、等々なんでも OK です（卒論テーマのところも見てください）。

3. 他学部、他の論系／コースと比較して、他にはない特徴を教えてください。

フランス文化関連の授業が多彩なのは当然ですが、**履修形態の自由度が高く、多様な知的関心に対応できるはず**です。**なぜかのんびりした雰囲気**も特徴でしょうか。仲良くしたい人たちはグループで行動し、一人でいたい人は一人でいられ、だからといって孤立しているわけでもない、という感じです。人数がちょうどいいからかもしれませんね。

もう一つ重要なのは、**留学しやすい環境**です。早稲田大学はパリ、リヨン、レンヌ、リール、ストラスブールなどフランス語圏の多くの大学と交換留学協定を結んでいます。通常なら学生の 5～6 人に 1 人はこれらの大学に留学しています。短期留学制度を利用する人もいますし、最近はカナダやスイスのフランス語圏やその他の英語圏、英語プログラムのある様々な地域に留学する人もふえてきました。

4. 演習やゼミで何が学べるのか教えてください。

2 年生の必修演習で語学・文学・文化の基本を学んだあと、3 年生以上の演習では、より高度な内容に取り組んでいきます。演習の内容は年によって異なりますが、**17・18 世紀の小説や演劇、19 世紀の詩と小説、20 世紀の文学・アート・思想、フランス語史**などです。

5. 進級に際して、どの程度の知識があることが望ましいでしょうか？また必要になる学力や語学力を教えてください。

フランス語やフランス文学・文化に何らかの興味を持っていていれば、**進級の時点で特別な知識はまったく必要ありません**。もちろん 1 年次の語学はがんばってほしいのですが、仏文に来れば必要な力は自然と身につくはずなので、**心配しなくて大丈夫**です。はじめからフランス語が堪能でないといけなと誤解している人がいますが、そんなことはないので安心してください。

6. 卒業後の進路について、どのような進路または方面（メディア、出版、銀行、公務員など）に進んでいる学生が多いか、現在在籍している学生はどのような方面を希望しているかを、できたら具体的に教えて下さい。

第一文学部のフランス文学専修は、常にマスコミやジャーナリズム、出版関係の分野に多くの人材を送り出してきましたし、何人もの作家や評論家を生み出しました。現在のフランス語フランス文学コー

スもこうした伝統を引き継いでいます。ただ最近では、コースごとの就職先の傾向は以前ほど差がないようです。出版、金融、IT、アパレルなどの一般企業や官公庁に就職する人も多いし、もちろんフランス語力を活かしてフランス系の外資企業に入る人もいます。大学院に進む学生も少なくありません。

7. 推薦図書を各2～10冊程度ご紹介下さい。

★コースの特徴を掴むのにおすすめの本。

フランス文学の入門書としては①を強くお勧めします。紙の本は品切れですが、電子書籍の形で手に入るようです。文学研究というのはどんなことをやるのだろうと思う人は、まず②のような本を手にとってみるといいでしょう。仏文には映画に関心を持っている人も多いのですが、フランス映画の全体像を知るための手ごろな一冊としては、③あたりをお勧めします。今のパリを知るのにいいのが④と⑤。パリ案内はちまたにあふれていますが、④はちょっと視点が変わってるし、リアルなパリでいいですね。⑤は人気の高いエッセー・マンガ。「フランスって本当にこうだな」と思わせます。⑥は有名な世界遺産の歴史を通して、フランス史に興味を持ってもらえたらと思って挙げました。表象文化論的な方向から関心を持ってくれる人も一定数いるので、写真論の古典である⑦も挙げておきます。バルトの思考の柔軟さには驚かされますね。最後の⑧は優れた同僚の専門分野からのおすすめです。

① 塚本昌則『フランス文学講義』、中公新書、2012年。

② 野崎敏『カミュ『よそもの』きみの友だち』、みすず書房、2006年。

③ 中条章平『フランス映画史の誘惑』、集英社新書、2003年。

④ 清岡智比古『エキゾチック・パリ案内』、平凡社新書、2012年。

⑤ かわかみじゅんこ『パリパリ伝説』1～12巻、祥伝社、2004～2025年（以下続巻）。

⑥ ジャン＝ポール・ブリゲリ『モン・サン・ミシェル：奇跡の巡礼地』池上俊一監修・岩澤雅利訳、創元社、2013年。

⑦ ロラン・バルト『明るい部屋 写真についての覚書』花輪光訳、みすず書房、1997年（新装版）。

⑧ 齊藤哲也『零度のシュルレアリスム』、水声社、2011年。

★コースの推薦図書。

フランス文学の名作を網羅するなどということは無理なので、とりあえず19世紀以降の有名作品で、あまり読みにくくなく、それぞれ独特な印象のあるものを選んでみました。①は言わずと知れた決定的名作。新しくなった翻訳で、果てしなくつづく物語に挑戦してみてください。③も文芸・ジャーナリズム論系にいらした芳川泰久先生による新訳です。「自由間接話法」に関する芳川先生の本もぜひ一緒に。④は発明王エジソンが出てくる人造美女ものの古典。世紀末的幻想と科学の見事な融合です。『星の王子さま』は誰でも知っているでしょうが、ぜひ⑤も読んでくださいね。⑥は言葉遊び的な実験ですが、まさに驚異の名訳。第二次大戦後の小説の代表としては⑦を挙げておきます。それから⑧でフランスの詩も味わってください。シャンソン「枯葉」の作詞家でもあった国民的詩人の代表作が、文庫でも読めるようになっています。それからみなさん、ぜひ②のデュマを馬鹿にされませんように。こんなにどんどん読めてしまう小説を書けるのは、やはり巨大な才能です。

ヴィジュアルなものも2つほど。フランスがマンガ大国であることはだいぶ知られてきましたが、⑨は話題作でした（値段は高いですが）。最後の⑩はシュルレアリスムからですが、これが文庫本になっているのは驚異なので、ぜひ手に取ってみてください。

コロナ禍以降、カミュの『ペスト』が話題になっていますが、私が紹介しなくてもいいかと思ってリストには入れませんでした。最後に一つ、古いものにも挑戦してみたい人には、ベディエ編『トリスタン・イゾー物語』（佐藤輝夫訳、岩波文庫、1953年）を薦めておきましょう。12世紀の悲恋ものを現代風にアレンジ。訳も名訳です。

- ① ヴィクトル・ユゴー『レ・ミゼラブル』（全5巻）西永良成訳、平凡社ライブラリー、2020年。
- ② アレクサンドル・デュマ『三銃士』（上中下）竹村猛訳、角川文庫、2009年。
- ③ ギュスターヴ・フローベール『ボヴァリー夫人』芳川泰久訳、新潮文庫、2015年。
- ④ ヴィリエ・ド・リラダン『未来のイヴ』斎藤磯雄訳、創元ライブラリ、1996年；高野優訳、光文社古典新訳文庫、2018年；木元豊訳、水声社、2026年。
- ⑤ アントワーズ・ド・サン＝テグジュペリ『夜間飛行・人間の大地』野崎歓訳、岩波文庫、2025年。
- ⑥ レーモン・クノー『文体練習』朝比奈弘治訳、朝日出版社、1996年。
- ⑦ マルグリット・デュラス『愛人』清水徹訳、河出文庫、1992年。
- ⑧ ジャック・プレヴェール『プレヴェール詩集』小笠原豊樹訳、岩波文庫、2017年。
- ⑨ ブノワ・ペータース+フランソワ・スクイテン『闇の国々』古永真一+原正人訳、小学館集英社プロダクション、2011年。
- ⑩ マックス・エルンスト『百頭女』巖谷國士訳、河出文庫、1996年。

8. その他、どのような学生が向いているか、などございましたらぜひご紹介ください。

特に向き不向きはないと思いますが、あえていえばマイペースな人には居心地がよいでしょうか。フランス文化に関心がある人だけでなく、何をやるかまだ決められないという人にもピッタリでしょう。

9. 卒業研究・ゼミ論・卒論のテーマを教えてください。

卒論のテーマとしては、文学関係が3割くらい、あとはもう本当にさまざまという感じです。過去4～5年の実例を挙げてみます。

——文学関連：●『素粒子』論 ●ミラン・クンデラ中期作品論 ●女性的エクリチュールの探求 —マルグリット・デュラスの著作をめぐって— ●『失われた時を求めて』における顔 ●シュルレアリスムと言語 —「地球はオレンジのように青い」を巡って— ●ユゴー、カミュから見るフランスにおける死刑廃止論について ●モーリス・ルブラン『ルパン、最後の恋』論 ●エミール・ゾラ『金』にみる経済活動の諸相 ●ジュール・ヴェルヌと編集者エツェル ●『レ・ミゼラブル』と19世紀フランス —フランス社会と女性の表象— ●谷崎潤一郎とバルザック —飛翔と没落— ●デュマ『ジョゼフ・バルサモ』における空想科学 —錬金術と動物磁気— ●フランソワ・ヴィヨンのバラードについて ●赤ずきんちゃんの変遷 —なぜ赤い頭巾を被っているのか— ●フランス文学における両性具有的表象について —19世紀フランス文学を中心に— ●セバスチアン・ジャプリゾの推理小説—完膚なきまでの「私」攪乱—

——映画：●『シェルブールの雨傘』における歌、音楽 ●60年代ゴダール映画における引用 ●エリック・ロメール研究 ●1960年代クライム映画の描写について ●フランス映画 年の差恋愛とその表現 ●成瀬巳喜男とフランス ●ロベール・ブレッソンの映画における「省略《ellipses》」について ●レオス・カラックス「アレックス三部作」論 —三部作性を問い直す視点から—

——美術・視覚文化：●マルセル・デュシャン研究 —レディメイドの形をめぐって— ●ハンス・ベルメールの人形写真 ●写真表現と印象派 ●クロード・モネにおける色彩とモチーフ ●アール・ブリュット作品の本質とは ●ウジェーヌ・アジェの写真を見るということ ●大聖堂の破壊と修復 —ノートルダム大聖堂の変遷を中心に— ●雑誌・新聞の中のバンド・デシネ ●南仏のファン・ゴッホ —「星月夜」における非現実の糸杉—

——舞台芸術：●モーリス・ベジャールとバレエの変遷 ●フレンチミュージカルの演出効果 ●『ノートルダム・ド・パリ』ミュージカル比較論 ●《牧神の午後》(1912)の振付と空間利用について ●19世紀フランスバレエ論 —バレエに見るロマンティシズム— ●フランス・オペラにみる17世紀フランスの

女性観・恋愛観 ●『春の祭典』と身体

——音楽——：●フレンチヒップホップの現在 ●エリック・サティ「家具の音楽」の思想をめぐって ●ドビュッシーのピアノ音楽 ●シャンソンから見るフランス人と戦い ―フランス革命からパリ同時多発テロ事件まで― ●ラップ・フランスの詩法

——思想——：●ジル・ドゥルーズのニーチェ ●メルロ＝ポンティの芸術論 ―在ることを表現する絵画について― ●J. J. ルソーの『人間不平等起源論』について ―「自由」と「所有」の考察― ●ミシェル・フーコーにおける主体と真理 ●ジャック・ランシエールの写真論について

——ファッション——：●クリスチャン・ディオール論 ―「私」を包囲するものたち― ●ココ・シャネル論 ―No.5 に見るシャネルのあり方― ●時代におけるモードの変容とその再定義 ●19 世紀フランスの上流階級における女性ファッションの変遷 ●ファッションの中心地としてのパリ ●〈68 年 5 月〉とアニエスベー

——食文化——：●日本ワインとフランスワイン ―飲食文化の比較とワインの在り方― ●18 世紀～19 世紀パリのカフェ ―発信と受容の場所― ● ミシュランの格付け戦略 ● 日仏の地理的表示から見る特産品保護 ―チーズを中心としたフランス AOC/IGP と日本 GI の比較

——その他もろもろ——：●フランスの教育と生活 ●フランスの匂いの歴史 ●フランスの同性婚から日本の同性婚を考える ●死刑執行人シャルル＝アンリ・サンソンの生涯 ●ツール・ド・フランスと日本 ●フランスのランジェリー ―1990 年代から現代まで― ●フランスとアイドル文化 ●『アサシン・クリード・シャドウズ』から見るフランス ―歴史を題材としたゲームの評価軸 ●19 世紀フランスの風刺新聞について ―シャルル・フィリポンと『ラ・カリカチュール』の経営戦略

10. コースに関する問い合わせ先、および HP と X の紹介

★39 号館（第 2 研究棟）3 階 2319：フランス語フランス文学コース室

質問は次のアドレスをお願いします。→ salut@list.waseda.jp

★HP：HP には講演会・シンポジウムなどの情報や、わりと詳しい教員紹介などが掲載されています。とても綺麗な作りなので、一度のぞいてみてください。卒業生インタビューも毎年追加しているのでぜひよろしく！[右の QR コードからどうぞ！]

★X：早稲田仏文 officiel @WFutsubun

X の公式アカウントも開設しています（「早稲田仏文」で検索すればトップにアカウントが出てきます）。こちらの方は、よりタイムリーな楽しい情報交換の場になっています。

★コース室の向かいに LA（ラーニング・アシスタント）の部屋があって、コース所属の先輩（主に大学院生）がフランス語に関する質問を受けつけています。授業でわからないところがあったりしたら、気軽に足を運んでみてください。1 年生のみなさんには、39 号館は少し敷居が高く感じられるかもしれませんが、フランス語を学んでいる学部学生全員のための制度ですので、ぜひ有効に活用してほしいと思っています。開室時間はホームページをご覧ください。

★毎週火曜日の昼休みには、casse-croûte du mardi と称し、教員と学生がそれぞれ昼食やお菓子、飲み物などを持ち寄って歓談する、気軽な昼食会をやっています。コースの雰囲気を知りたい人や留学のことを聞きたい人は、ぜひ様子を見に来てください。この日はアポ無しで大丈夫ですからね！



フランス語フランス文学コース主任 小黒昌文

○ドイツ語ドイツ文学コース○

1. コースの概要を教えてください。

この生協パンフレットではみなさん、堅苦しいコースの公式見解ではなく、先輩たちの生の声を聞きたいと思うので、教員は余計な口出しはせず、以下、在学生や卒業生から寄せられた声をコラージュしてみました。

グローバル化が叫ばれる現在、多くのことを横断的に学びたい、なぜ一つの文化圏にこだわるのかと思う人もいるかもしれません。しかし、まず一つの文化圏にどっぷりつかること、初めて分かることが多くあるのも事実です。本コースでは、ドイツ語という幹さえしっかり持てば、そこから文学、語学、哲学、美術、音楽など自分の興味のある分野へと自由に枝を伸ばしていくことができます。まだ興味が定まっていなくても、ドイツ語を学び、講義を受ける中で、自らの興味や軸をのんびり探し当てることができるのです。少人数のコースで、教員のサポートも厚く、知識や語学力など多少不安があっても大丈夫です。卒業の際、「私はこれを学習しました!」と自信を持っていえるものがあることは、大きな財産となります。大学生という人生で最も自由な時期に、雄大なドイツ語圏の世界で、やりたいことを好きなようにやってみませんか?

2. どのような研究ができますか?

語学・文学・哲学はもちろんのこと、美術・音楽・建築・映画など、ドイツ語圏（ドイツ・オーストリア・スイス）に関わるものならあらゆるものが研究できると思います。写真やファッション、スイーツなどでも、ドイツ語圏に少しでもかすっていれば大丈夫です。ドイツ語での講義も充実しているので、集中してドイツ語力をあげることが可能です。実は文筆活動をしている、という学生がちらほらいて、彼らの作品を読むと本人の研究分野や姿勢に深く関わっている印象があります。自分の研究・創作活動も、伏線の配置や回収に目を凝らした作品分析をしています。ドイツ語圏に関係すれば、どんな研究でもできます! 選択講義や演習の内容も、文学はもちろん、哲学、言語学、芸術、建築等と幅広くありますので、必ず興味のある分野を見つけられます。

3. 他学部、他の論系／コースと比較して、他にはない特徴を教えてください。

他の人に無理に合わせなくてよく、一人で自由に行動できるのに、それでいて孤独感を感じることも無く、コースの一員だという意識をもてるところです。コースの人数が多すぎないため、先生に顔と名前を覚えてもらうことができます。一人一人の興味や性格に合わせた指導が行われていると感じています。個別的な経験知に頼らず、共有しうる知をめざして議論しようとする人が多いです。対象に深く関わることができる。専門的な知識にアクセスする手段が数多くある。少人数のアットホームな雰囲気の中で、じっくりドイツ語力を高められるところです。私は文構からの転部生なのですが、転部を決めた理由もこの点が大きいです。全員と顔見知りになるので、合宿等のイベントもとても楽しいですよ! 生温いグループ発表で他人の顔色を伺い妥協した結論だしたりする必要がなく、清々しいまでの個人プレーをかませるところです。

4. 演習やゼミで何が学べるのか教えてください。

文学系の演習は学生の発表が中心で、あとは原文で作品を読みます。文化系はドイツの建築や美術、音楽や生活文化に関して、言語系はドイツ語の言語学的な研究について学べます。ただ文学を訳したり先生の話を聴くというだけでなく、自分の意見を求められるので、考えをまとめたり、まとまってなくともとりあえず言ってみる(笑)、という能力もある程度身につくように思います。卒論演習では、先生と一対一で文献を読むこともできます。ネイティブの先生が指導教授の場合はドイツ語を用いてテキストの理解を深めていきます。先生に頼りすぎず、自分なりの研究の立場をもつことの大切さを知ることができます。ドイツ語の文献の精読をすることが多いですが、学生による発表がほとんどの演習にありますので、自分の興味のある分野についてじっくり考えを深める機会もあります。少人数ですので、毎回の演習の密度が濃く充実感も高いです。ひたすらドイツ語で原文のうまみを味わう授業があれば、テーマを決めてドイツ語圏に限らず古今東西の作品を読んで議論する授業、学生それぞれが読みたいテキストを持ち寄って皆で読んだりする授業など、先生によって授業のあり方は様々です。ドイツ語力の向

上はもちろんのこと、一人一人の発言や発表に割り当てられる時間が長く、自分とは違った考え方やアプローチをじっくり聞くことができるので、とても勉強になります。人前で話すのが神経性の胃痛が起こすほど苦手だという方も、三年になるころには前日眠れない程度に落ちつくので、大丈夫だと思います。

5. 進級に際して、どの程度の知識があることが望ましいでしょうか？また必要になる学力や語学力を教えてください。

知識や学力によってハードルが設けられていることはほとんどありません。ドイツ語ができるに越したことはありませんが、一年時にドイツ語を第二外国語に選択していなかった人もいます。人それぞれに持っている知識の傾向にも大きな違いがある（この多様性がドイツ語ドイツ文学コース）ので、あらかじめこの知識が必要というよりは、新しいことをとりいれていく姿勢の方が大切です。読書量と語学力はあればあるほど楽しめます。基本的には各々が思うままのことをやっているのです、自分の得意分野めいたものが一つあると良いかもしれません。語学力に関しては、有志で読書会をやることもあります。基本的にはドイツ語は個人で、授業なり自習なりで学習しているのではないのでしょうか。進級時点でこの程度語学力が必要、というのはありませんが、ドイツ語既習者も未習者も春休みの間に文法書やラジオでドイツ語に触れておくのがオススメです！ 原文で読めるようになりたい本を見つけておくのも、きっと今後の学習の励みになります。

6. 卒業後の進路について、どのような進路または方面（メディア、出版、銀行、公務員など）に進んでいる学生が多いか、現在在籍している学生はどのような方面を希望しているかを、できたら具体的に教えて下さい。

文学部の他のコースと大差ありません。出版社、メーカー（ヨーロッパ系も）、金融、運輸、流通、国家公務員、地方公務員、テレビ局、新聞社、食品業、生保、損保、IT 関連、書店、教員、俳優など。大学院進学者も多く、本学文学研究科や他研究科のほか、東大、一橋、京大などに進学しています。全国各地の大学で教鞭を執る先輩も多数います。

7. 推薦図書を2～10冊程度ご紹介下さい。

☆ヴォルフガング・ヒルデスハイマー『詐欺師の楽園』（白水社Uブックス）

天才贋作師が国を巻き込むペテンを軽やかにやってのける話です。最後に読んでからだいぶ経ちますが、今でも時折ラストの場面を思い出してはニヤリとします。はちゃめちゃに面白いので是非読んでみてください。

☆ブレヒト『三文オペラ』（岩波文庫ほか）

終始ドタバタしていて、ドイツ文学の中では珍しく、明るい雰囲気作品です。社会風刺的な面や皮肉な面もちろちら垣間見え面白く、おそらく戯曲を初めて読む人でもすらすら読めます。機会があれば実際に舞台を見に行くのも面白いと思います。

☆『ブリキの太鼓』ギュンター・グラス／フォルカー・シュレンドルフ（映画）

見た目は3歳のまま、中身は大人のオスカルが、ブリキの太鼓を叩き、奇声でガラスを割る能力を携え、はちゃめちゃに悪さをする姿を描いた異色作です。こちらは原作を読むとかなり量があるのですが、前半の部分が映画化されているので、少し気になるな、と思った人にはおすすめです。

☆多和田葉子『言葉と歩く日記』（岩波新書）

ドイツ在住エクソフォニーである著者が、言語と言語の境界に留まっているからこそ輝く言葉たち。日記ならでの日常感の中で、「言葉」「言語」の面白さに浸れる一冊です。「寝坊」に関する思考はとくに面白い！

8. その他、どのような学生が向いているか、などございましたらぜひご紹介ください。

自分の興味のある分野だけではなく、未知の、想像すらしていなかったような対象に積極的にかかわっていけるような方に来ていただきたいです。自立した学生。好奇心旺盛な人（つまらないと言われるものにも面白いところを見つけられるような…）。国内や国語に安住しない人。どこに向かえばよいのかわからない人。ここから何処へでも行けます。

9. 卒業研究・ゼミ論・卒論のテーマを教えてください。

【文学】 フランツ・カフカ『失踪者』について ハイナー・ミュラーにみる自己という存在 ハイネリヒ・フォン・クライストの短編小説 静けさの中の狂気-トーマス・ベルンハルト『石灰工場』について ヘルマン・ヘッセ『春の嵐』における人物像についての分析 トーマス・マン『ヴェニスに死す』における砂の存在 最後の秘密の白い部屋-インゲボルク・バッハマンの短編集『三十歳』における色と時間

【言語】 ドイツ語における「格」的なかわり ドイツ語の接辞について-疑似接頭辞と結合要素の関係 中世低地ドイツ語の書記法について-ハンザ都市リューベック及びドルトムントを対象に 移民に向けた言語教育 新高ドイツ語と中高ドイツ語の不規則変化動詞-強変化動詞を量的に比較する

【音楽】 『魔笛』とエジプト神話 無伴奏チェロ組曲からみるバッハ像 リヒャルト・ヴァーグナーと「解釈の海」-「経験的モメント」としての『ニュルンベルクのマイスタージンガー』 音楽都市ライプツィヒク ララ・ヴィーク=シューマンの女性音楽家としてのキャリア形成について

【哲学】 ニーチェの遠近法主義と生 ロゴスとパトスのあいだ 克服されざるアーレント -道徳のアクチュアリティ-ニーチェから考えるポストモダン時代のソクラテス

【美術】 グスタフ・クリムトの《接吻》 エゴン・シーレにおける女性像 事物へのまなざし ——セザンヌ体験による事物観の実践——

【建築】 フリッツ・ヘーガーの煉瓦建築-ドイツ表現主義時代の影響 ミュンヘン教会堂建築の比較-テアティーナー教会を中心として ナチス・ドイツ時代の建築

【映画】 マジックミラーに向き合うということ-ヴィム・ヴェンダースの映画における「映像」と「物語」『意志の勝利』はプロパガンダ映画か？

【文化事情】 ドイツ南西部の民族衣装ウィーンミュージカル『Elisabeth』はなぜ日本でヒットしたのか ドイツ語圏のカフェ事情 ドイツサッカーナショナルチームにおける差別問題 ドイツ文化思想と服飾産業-服飾産業の現在過去未来

10. コースに関する問い合わせ先、および web の紹介

33 号館 6 階 601・602 ドイツ語ドイツ文学コース室

<http://wasedadokubun.weebly.com>

○ロシア語ロシア文学コース○

1. コースの概要を教えてくださいー『ロシア』を問い直しながら、自己、他者、世界に向きあう力を育む

《ロシア語ロシア文学コース》は、早稲田大学における長いロシア研究の伝統を受け継ぎながら、ロシア語によって形づくられてきた文学・文化・歴史を、現代の視点から問い直すコースです。

ロシアによるウクライナ侵略は、「ロシア」とは何か、ロシア文化とは何なのか、それらをどのように語るべきなのかという問題を、改めて突きつけました。もちろん、私たちはロシア政府による軍事侵攻に反対しますし、「ロシア語圏」「ロシア文化圏」のような、ややもすれば現体制のイデオロギーに与してしまうような観念についても慎重に扱うべきだと考えています。文学や文化を学ぶことは、国家を称揚することではありません（ロシアに関していえば、いずれの時代も常に多くの作家や芸術家が体制と格闘してきたことを想起すれば言うまでもないでしょう）。むしろ、文学や文化を通じて、帝国と植民地、中心と周縁、多数者と少数者、支配する者と支配される者のあいだに生じてきた複雑な関係を考えることが、これまで以上に重要になっています。

キエフ（キーウ）・ルーシに始まる東スラヴ世界、モスクワ国家とロシア帝国、革命とソ連、ソ連解体後に生まれた諸国家——この地域の歴史は、ひとつの国家の歴史として語り尽くせるものではありません。多民族国家ロシアは、いわゆる「近代」以前のキエフ・ルーシ時代、「タタールの軛」や「動乱時代」を経たのちに成立するロマノフ朝、そこから近代化することで帝政時代を迎え、さらには革命を経て訪れるソ連時代、そして、ソ連解体後の現代へと至るように、数々の激変を経験してきました。そうした時代の変遷と共に独特な文学や美術、映画や演劇、音楽などが次々と生みだされてきましたが、民謡や民話などのフォークロア、中世文学、プーシキン、ドストエフスキー、トルストイ、チェーホフといった文豪たちの作品など、数多くのものが時代を超えて生き続け、現在でもその輝きは失われていません。

《ロシア語ロシア文学コース》では、文学をはじめとする古今の「ロシア」文化事象全般についての理解を深め、そのことを通して、時代に即した「ロシア」像の獲得を目指します。また、語学力はもちろん、それを实际的なコミュニケーションにおいて生かすための総合的な知を習得していきます。

2. どのような研究ができますか？ー「ロシアを知る」から「ロシアを相対化する」へ

例えば、19 世紀ロシア文学を代表するドストエフスキーの作品が、現代でもよく読まれているのはなぜでしょう？ 「暗い」「重い」といった一面的なイメージにとらわれず（ドストエフスキーにも笑える作品や恋愛小説があるのはご存知でしょうか？）、確かな知識にもとづいて読み解けば、ロシア文学本来の「面白さ」が見えてきます。土着的信仰とキリスト教の交錯、急速な近代化、西欧との関係、イデオロギー、ソ連という壮大な国家的試み、グローバリズムの中での現代ロシア……。もちろん、日本との交流も含めて、歴史の変遷において培われてきた「ロシア」には、いまの自分について、まわりの人々や社会について考えるためのさまざまなツールがそろっているのです。

また、ロシア文学は 19 世紀文学ではありません。ソローキンやペレーヴィン、ウリツカヤやシーシキンといった現在活躍中の作家の翻訳も多くあり、日本でも人気を博しています。また、2015 年にノーベル文学賞を受賞したアレクシエーヴィチは、ロシア語で執筆するベラルーシの作家です。ロシア語ロシア文学コースが射程としているのは、「国としてのロシアの文学」のみならず、ロシア語

の文学全般です。扱うジャンルも広いです。たとえば、日本でもよく知られている絵本『おおきなかくし』はロシアの民話に由来するものですし、いわゆる「韃靼人の踊り」で有名なボロディンのオペラ『イーゴリ公』の原作は、中世ロシア文学の傑作『イーゴリ軍記』です。

このようにあらゆる時代、あらゆるジャンルの文学について《ロシア語ロシア文学コース》では学べます。また、文学のみならず、音楽、美術、バレエ、演劇、映画、思想、民俗の各領域で花開いた文化、ウクライナ、ベラルーシ、コーカサス、中央アジア、バルト地域など、ロシア帝国・ソ連と歴史的に関係をもってきた地域の文化についても学ぶことになります。ロシア帝国・ソ連、そして現在のロシアを「中心」からだけでなく、それをかつて構成していた、あるいは現在構成している諸民族・諸地域の側から捉え直す研究も可能ですし、大いに推奨されるべきテーマだと思います。もちろん、ロシアと日本のあいだの比較文学・比較文化的な研究も可能です。

3. 他学部、他の論系／コースと比較して、他にはない特徴を教えてください。

まず、他大学との比較で述べると、外国語学部にロシア語学科をもつ大学は全国にありますが、文学部に「ロシア語ロシア文学」の名称で独立したコースを設置している大学は他にありません。また、古代・中世から現代に至るまでをカバーできるスタッフ陣を擁しているのも誇るべき点です。言語と文学・文化とをあわせて総合的に学ぶことができる——これは、露文コースの研究・教育の最大の強みと言えるでしょう（就職活動でもアピールポイントのひとつになっているようです）。所属学生数が少ないこともあり、それぞれの演習では活発な意見のやりとりが行われています。自由でのびのびとした、アットホームな雰囲気がコース全体に広がっています。

4. 演習やゼミで何が学べるか教えてください。

学年ごとに必修となっている演習のカリキュラムに沿って学んでいくと、19世紀から現代にいたる文学をはじめとするロシア文化の全体像、また、フォークロアや中世文学といった文化の基層を理解することができます。さらには、文化を読み解いていくための理論や、社会や生活に根ざした、コミュニケーションに役立つ知識なども習得できるでしょう。

文学部にはゼミという制度はありませんが、卒論演習が実質的に3年次の秋学期の終わり頃から始まり、良い卒論を書き上げられるよう、学生のそれぞれの関心に応じたきめ細かい指導が行われています。

5. 進級に際して、どの程度の知識があることが望ましいでしょうか？ また必要になる学力や語学力を教えてください。

入門的なロシア文学史、そしてロシア文学の古典的な名作に少しでも親しんでおいてください。また、文学、美術、映画、演劇、音楽、バレエ、スポーツ…どんな分野でもかまいませんから、「ロシア」に積極的に関心をもってください。ロシア語文法の基礎的な知識は不可欠です。

6. 卒業後の進路について、どのような進路または方面（メディア、出版、銀行、公務員など）に進んでいる学生が多いか、現在在籍している学生はどのような方面を希望しているかを、できたら具体的に教えて下さい。

ロシア語の学習経験を生かす卒業生も多く、マスコミ（テレビ、ラジオ、新聞）、出版社、商社、旅行会社、メーカー、銀行、航空会社、鉄道会社などに就職しています。官公庁に入る学生もいます。さらに大学院に進んで研究者を目指す人や、翻訳者、通訳として活躍している卒業生も少なくありま

せん。

7. 推薦図書を各2～10冊程度ご紹介下さい。

井桁貞義『ドストエフスキイ・言葉の生命』（群像社）
伊東一郎編『ロシアフォークロアの世界』（群像社）
イーゴリ・エヴラームピエフ『ロシア哲学史：〈絶対者〉と〈人格の生〉の相克』下里、坂庭ほか訳（水声社）
貝澤哉『引き裂かれた祝祭：バフチン、ナボコフ、ロシア文化』（論創社）
坂庭淳史『プーシキンを読む：研究のファースト・ステップ』（ナウカ出版）
高柳聡子『埃だらけのすももを売ればよい ロシア銀の時代の女性詩人たち』（書肆侃侃房）
中村唯史、坂庭淳史、小椋彩編著『ロシア文学からの旅』（ミネルヴァ書房）
奈倉有里『ロシア文学の教室』（文藝春秋）
松下隆志『ナショナルな欲望のゆくえ：ソ連後のロシア文学を読み解く』（共和国）
三浦清美『ロシアの思考回路 その精神史から見つめたウクライナ侵攻の深層』（扶桑社）
水野忠夫『新版 マヤコフスキイ・ノート』（平凡社ライブラリー）
ロシアフォークロアの会なろうど『ロシアの歳時記』（東洋書店新社）

8. その他、どのような学生が向いているか、などございましたらぜひご紹介ください。

ロシア文化は多様で奥深く、また、日本文化にも大きな影響を与えてきました。それぞれが自分自身の関心からロシア文学・ロシア文化へアプローチしてください。ただし、「文学部」のコースで「外国語学部」ではないからロシア語はできなくてもよい」とは考えないでください。言葉を経由せずして、文化の精髓には肉薄することはできないのですから。ロシア語を学ぶことは、一つの国について詳しくなることだけを意味しません。一つの言語を手がかりとして、国境を越えて広がる文化と歴史に触れ、国家、民族、言語、宗教、記憶、戦争といった問題について考えることでもあります。「ロシア」を学ぶことを通して、「ロシア」という枠組みそのものを問い、そこから日本と世界を見直してみてください。

9. 卒業研究・ゼミ論・卒論のテーマを教えてください。

文学、思想、言語、歴史、演劇、映画、音楽、バレエ、日露の文化比較…… 様々な研究領域がありますが、最近の卒論のテーマを挙げておきます。もちろん、「これらすべてを知っている必要がある」ということではありません。「ロシア」のさまざまな顔と可能性を理解していただければ嬉しいです：

○フォードル・ソログープの詩集『炎の輪』翻訳と考察 ○北方領土問題——日本の失敗と教訓 ○マヤコフスキー作品における「分身」のテーマについて ○トルストイ『戦争と平和』におけるピエールの旅路を追って——人を *о б р а з о в а т ь* するとはどういうことか ○フォードル・ドストエフスキイと湊かなえ——『罪と罰』を『告白』『人間標本』から考察する ○ロシア語と日本語における相互言語教育カリキュラムについて ○ポストモダニズムにおける読者参加型小説のゆくえ——大衆的読者啓蒙のための文学実験史 ○ベルジャーエフの思想をめぐる考察 ○アーティスティッ

クスポーツと舞踏——ロシアのアスリートを例に ○ソローキンの作品にみられる言説の外部性について ○フィギュアスケートは芸術か否か ○ロベール・ブレッソン『ラルジャン』論 ——『にせ利札』との比較および、主人公イヴォンの演出について ○ワシリエフ『亡命の美』第1章「バレエ・リュスとロシアファッション」 翻訳および解説 ○シベリア鉄道の歴史と日本との関係について ○〈大泉黒石〉の誕生——黒石大泉清小伝 ○日露戦争期に見る日本とロシア ○ヴェリミール・フレーブニコフ研究——「笑いの呪文」読解 ○日本の現代演劇におけるスタニスラフスキー・システムの影響 ○ダニイル・ハルムス研究——「遊び」と真剣さの詩と『出来事』 ○思考について——レーニンを補助線として ○ウラジーミル・ナボコフとロシア文学 ○ロシア、日本、東欧におけるスポーツと国民の関係性 ○ロシアにおける舞台のジャポニスム ○ロシア文学のバレエ化 ○イコンにおけるイメージ ○マリーナ・ツヴェターエワ『山の詩』読解——愛と記憶を中心に ○リュドミラ・ウリツカヤ作品における身体役割——記憶とのかかわりをめぐって

10. コースに関する問い合わせ先、およびwebの紹介。

メール： robun@list.waseda.jp（ロシア語ロシア文学コース）

miura_kiyoharu@waseda.jp（コース主任 三浦清美）

HP ： <https://www.waseda.jp/bun-russia/> （コース室：39号館6階2619）

○演劇映像コース○

1. コースの概要を教えてください。

1946 年、当時の文学部に演劇専攻と美術専攻からなる芸術科が創設され、1949 年に演劇専修として独立しました。1999 年度からは専修の実情に合わせて「演劇映像専修」と改称し、さらに 2000 年度からはカリキュラムも演劇系と映像系の二系統からなる構成に改編しました。新しい文学部の「演劇映像コース」でもこうした枠組みを基本的に継承しています。学生定員は 45 名で（演劇系 15 名、映像系 30 名）、教員は演劇 2 名、映像 3 名に講師（任期付）1 名を加えた 6 名です。

2. どのような研究ができますか？

主な研究領域としては、日本演劇、西洋演劇、映画があげられますが、近年はこのほかにも舞踊や民俗芸能や文化政策、テレビやアニメや CG など、多様な領域が対象として含まれるようになりました。それらすべてをコースの専任教員でカバーすることは不可能ですので、足りない分野については文化構想学部や非常勤の先生方にご協力いただいています。

3. 他学部、他の論系／コースと比較して、他にはない特徴を教えてください。

演劇や映像の専門課程といっても、いわゆる実技教育を目的にしているのではなく、あくまでも学術研究を中心に行っているという点が特徴でしょう。また、研究のアプローチについても、例えば同じ戯曲を読む場合でも、文学表現としてよりも、常に演出のありかたを意識した分析を行いますし、映画に関しても、特定の国や時代に対する関心にとどまらず、映画史や映画理論全般を学ぶことでその特質を包括的にとらえることをめざしています。

4. 演習やゼミで何が学べるか教えてください。

演劇系の演習科目では日本古典演劇・民俗芸能、西洋演劇・日本現代演劇、舞踊（バレエ・ダンス）などの舞台芸術について、映像系の演習科目では映画史や映画理論を中心に、表現の分析や社会との関係、他の映像メディアなどについて学べます。さらに、演劇と映像の両方に関わる内容の演習科目も設置しています。

5. 進級に際して、どの程度の知識があることが望ましいでしょうか？また必要になる学力や語学力を教えてください。

進級希望者に望むことはなんといっても、演劇や映画をたくさん見てほしいということです。熱狂した舞台作品、感動した映画が数え切れないくらいあって初めて、それを学術的に研究してみようという気が起こってくるのではないのでしょうか。まずは「知識」よりも「感動」を求める姿勢と行動が大切です。

6. 卒業後の進路について、どのような進路または方面（メディア、出版、銀行、公務員など）に進んでいる学生が多いか、現在在籍している学生はどのような方面を希望しているかを、できたら具体的に教えて下さい。

進路について特に際立った特徴があるわけではなく、多くの学生の就職先は文系学部の一般的な傾向と変わりありませんが、強いて言えば、新聞・放送などのマスコミ関係や、出版・広告関係に就職する人が多少目立つように思います。演劇・映像の分野で職を得る幸運な人ももちろんいますし、大学院に進学する人もいます。

7. 推薦図書を各 2 ～ 10 冊程度ご紹介下さい。

①コースの特徴を掴むのにおすすめの本。

②コースの推薦図書。

- ・河竹登志夫『演劇概論』（東京大学出版会、1978 年） 演劇研究の第一人者による、日本と西洋いずれの演劇の理解も可能にする基本書

- ・デイヴィッド・ボードウェル、クリスティン・トンプソン『フィルム・アート—映画芸術入門』（藤木秀朗監訳、名古屋大学出版会、2007年） 映画を研究するための基本的なアプローチを包括的かつ明快に解説した入門書

8. その他、どのような学生が向いているか、などございましたらぜひご紹介ください。

勉学の姿勢については5) で述べたことに尽きます。さらに、自分が見て感動した演劇や映画をめぐって、友だちと楽しく、かつ率直に語り合えるような、開かれた性格の持ち主であることも大切です。独りよがりな姿勢では研究の深さも広がりも期待できません。

9. 卒業研究・ゼミ論・卒論のテーマを教えてください。

ある年の一例です。「映画と人類」「レーニ・リーフェンシュタール作品におけるプロパガンダ性とその逸脱」「舞台の映像化に関する一考察」「映画技術史」「ルイス・ブニュエル論」「SF 映画から考えるアンドロイドと人間」「映画における食の役割」「アートフェスティバル研究」「地方における歌舞伎文化継承に関する考察」「二階堂瞳子論」「コミュニケーションの課題と展望」「『男はつらいよ』シリーズにおける家族の表象」「戦争映画におけるホモソーシャルティ」「イム・グォンテク論」「宝塚歌劇と日本のテーマパーク」「『ステラ・ダラス』における女性観客」「美空ひばりの異性装時代劇」「アルフレッド・ヒッチコック『ロープ』論」「『美女と野獣』とディズニーミュージカル」「化政期における江戸役者と上方役者」「東西演劇における音声の違い」「スタンリー・キューブリック研究」「映画とタップダンス」「戦後 70 年を機に考察する演劇と平和」「『黒蜥蜴』」「現代大道芸に関する諸考察」「観客の映画体験における字幕スーパーの触媒作用」「是枝裕和の劇映画におけるテレビドキュメンタリーの影響」「平田オリザの現代口語演劇の革新性」「アメリカン・ニューシネマとヴェトナム戦争」「井上ひさし作品におけるユートピア」「『男はつらいよ』シリーズにおけるさくら像の変遷」「『時をかける少女』と細田守」「女殺油地獄論」「1970 年代のアメリカ映画における同性愛の表象」「アニメの中に息づく演劇性」「21 世紀に生きる歌舞伎ことば」「プロパガンダとしての演劇と映画」「『メトロポリス』(1927) から『メトロポリス』(2001) へ」「アメリカン・ニューシネマにおける「車」の表象」「何がゴジラを殺すのか」「映画と感覚」「考察・鈴木清順」「総合舞台芸術としてのバレエ」「アウグスト・ボアール論」「日本のバーレスク」「応用演劇の可能性」「映画における暴力表現と観客」「映画『サウンド・オブ・ミュージック』の脚色と受容」「映画における入れ子構造」「歌舞伎的なもの」「映画興行史」「映像における切り替えとカメラワーク」

10. コースに関する問い合わせ先、および web の紹介。

演劇映像コース室（33 号館 6 階 605 室）には講師（任期付）ないし TA が勤務していますので、気軽に相談に来て下さい。ホームページの URL は <http://www.engkieizo.com/>、X（旧 Twitter）のアカウントは@tf_waseda です。

○美術史コース○

1. コースの概要を教えてください。

美術史は「作品を見る」ことから始まり、様々な道程を経て「作品を見る」ことで終わる学問です。したがって、「眼で考える」力を養う訓練を、もっとも大切な勉強と考えます。

「自分は絵がへただけだからなあ……」。そんなことはまったく関係ありません。美術史は実技とはちがうのです。もちろん、実技の経験や知識も大いに役立ちますが、どちらかというひたすら作品を見て、調べ、作品を語ることが美術史の原則です。でも、この「見る」ことほど、簡単なようで困難なことではないのです。それは、自らの知性と感性で主体的にそこに参加することで、初めて成立する行為だからです。深い知性や豊かな感性があれば、作品への理解や感動は一層高まってくるはずです。

コースには日本、東洋、西洋の三本柱があり、すべての分野の美術の歴史を学びます。そのうえで自分が関心をもった分野を選択して、専門的な研究をスタートさせてください。

なお、美術史コースの HP の他、2019 年からインスタグラムも始めましたので、こちらもぜひ参考にしてもらえればと思います（末尾 10 参照）。

2. どのような研究ができますか？

学生たちが取り組む研究テーマは極めて幅広く、多彩です。絵画・彫刻・建築・工芸といった正攻法のテーマはもちろん、それ以外にも、たとえば庭園の美学や茶の湯、広告やデザイン、ポスター、写真、さらにはサブカルチャー的なものまで含めて、各人が主体的に取り組もうとするテーマを、美術史的視点から考える姿勢が常に尊重されます。

3. 他学部、他の論系／コースと比較して、他にはない特徴を教えてください。

奈良の古寺を愛し、歌人、書家としても著名な會津八一（1881～1956）が美術史コースの創立者です（大隈講堂の向かいにある會津八一記念博物館というレトロ建築を知っていますか？）。1925年の開設以来96年の歴史があります。数多くの研究者、専門家を輩出し、卒業生のネットワークは、全国の美術館・博物館・大学・マスコミなどに広がっています。その歴史、規模、レベルにおいて日本有数の教育・研究機関といえるでしょう。各界で活躍する先輩たち（研究者や学芸員だけでなく、出版、メディア、一般企業）の存在がみなさんの将来の頼もしい支えとなりますし、何より芸術の世界を生涯楽しめるのが美術史のお得なところでしょうか。そのためにも、ただ新しい、面白いというだけの表面的な理解に陥らないよう、このコースで基礎的な教養をじっくりと身につけておきたいものです。

4. 演習やゼミで何が学べるか教えてください。

日本、東洋、西洋ともに専門課程への入門的なものから始め、まずは3分野の美術史のおおよその流れを学びます。また漢文史料や英文史料の読解、くずし字の読み方や落款印章の解説など、作品をいっそう楽しむための基礎的な力を養う演習もあります。そして各自の関心により、専門的な視点から研究方法を習得するためのプレゼンテーションなど、多彩な演習内容が用意されています。また作品と出会う機会としての美術館・博物館見学会（2年生）や、奈良研修旅行（3年生）も例年企画されています。

5. 進級に際して、どの程度の知識があることが望ましいでしょうか？また必要になる学力や語学力を教えてください。

一見すると、高校までの教科と関わりのうすい美術史は、なかなかみなさんの視野に入ってこないかもしれません。しかし実際は、国語、外国語、数学、社会、理科、美術、音楽、書道、体育、あらゆる科目と総合的に結びつくのが美術史です。万能の人と呼ばれたレオナルド・ダ・ヴィンチの活動領域の広さを思い起こしてみましょう。そのいずれかに得意分野があれば、美術史に取り組む土台になります。

また、知識は進級してから身につけることができます。進級前の段階では、モノ（造形作品）に対して旺盛な好奇心を持ち、常にモノを見る姿勢をもっていることが必要なだけです。なお、日本・東洋・西洋、いずれの地域を学ぶ上でも英語は必須です。卒業論文に取り組むに際して、テーマに選択した国

や地域によってそれぞれの語学が必要になってくる場合があります。

6. 卒業後の進路について、どのような進路または方面（メディア、出版、銀行、公務員など）に進んでいる学生が多いか、現在在籍している学生はどのような方面を希望しているかを、できましたら具体的に教えて下さい。

美術館・博物館の学芸員を目指す場合、高い専門性が求められますので、大学院への進学者が多いのが特徴です。例年、十名程度が早稲田や他大学の大学院へ進学します。その他では、マスコミ・広告関係、美術館・博物館の一般職、メーカー、学校・公益団体、公務員などが多いところです。一般企業への就職に際しても、美術史だから不利ということはありません。むしろ、近年の経済界や産業界では、人文系の教養を有し、ビジュアルリテラシーを駆使できる人材への期待が高まっています。

7. 推薦図書を各2～10冊程度ご紹介下さい。

①コースの特徴を掴むのにおすすめの本

日本、東洋、西洋の各美術史の大まかな流れをつかみ、名品を眼で記憶し、将来研究テーマを考える時の参考にしてください。

1. E.H. ゴンブリッチ『美術の物語』ポケット版、河出書房新社、2024年
2. 『日本美術史(美術出版ライブラリー 歴史編)』 美術出版社、2014年
3. 『増補新装 カラー版 東洋美術史』 美術出版社、2000年
4. 『西洋美術史(美術出版ライブラリー 歴史編)』 美術出版社、2021年
5. 高階秀爾『名画を見る目』 岩波新書、1969年（もう半世紀以上前の本ですが、作品を論理的、歴史的に解説する西洋美術では画期的な入門書です。一枚の絵を通して何が見えるか、そこに仕組まれた意図やトリックは何か、美術史の醍醐味に触れることができます。）

②コースの推薦図書

以下は美術史コースの先生やOBによる著書です。早稲田大学美術史コースの学風を垣間見ることができます。

- 『夢と光の画家たち』坂上桂子 スカイドア
『光の美術 モザイク』益田朋幸 岩波新書
『初唐仏教美術の研究』肥田路美 中央公論美術出版
『もっと知りたい狩野永徳と京狩野』成澤勝嗣 東京美術
『浄土の美術—極楽往生への願いが生んだ救いの美』内田啓一 東京美術
『密教の美術—修法成就にこたえる仏たち』内田啓一 東京美術
『江戸の絵を愉しむ—視覚のトリック』榊原悟 岩波新書843
『闇の日本美術』山本聡美 ちくま新書1356

8. その他、どのような学生が向いているか、などございましたらぜひご紹介下さい。

机上の勉強はもちろんですが、なんと言っても旅が好きな人に向いています。美術館・博物館の展覧会、アート・イベント、作品が残る史跡や遺迹など、作品を見るため世界中へ旅する理由に事欠きません。一方で文献から学ぶことも多く、日本・東洋・西洋の歴史・宗教・文学・民俗に関心がある人にも向いています。

9. 卒業研究・ゼミ論・卒論のテーマを教えて下さい。

美術史コースのHP（下記10参照）に、過去十年分ほどの卒論題目を掲載していますので、いちどご覧ください。葛飾北斎やカラヴァッジョといった作家や作品を取り上げたオーソドックスな研究から、都市と建築、能面、ファッション、マンガ、震災後の美術界の動向などなど、毎年、各人の関心に即してたいへん多様なテーマの論文が生まれています。

10. コースに関する問い合わせ先、およびwebの紹介。

美術史学コース室：TEL 03-5286-3650。39号館2階 左奥突き当たりの2201号室。

美術史コースHP：<http://flas.waseda.jp/arthisory/>

早稲田大学美術史コース インスタグラム：https://www.instagram.com/ha_waseda/

○日本史コース○

1. コースの概要を教えてください。

世界の動きに目を向けつつ、「日本」がたどってきた歴史を広い視野から考察します。2年次では講義と演習を通じて古代・中世・近世・近現代すべての時代について学び、3年次で自身の関心を深め、4年次では自身の専攻する時代と研究テーマを決めて、卒業論文に取り組みます。

2. どのような研究ができますか？

世界に存在するあらゆるものには歴史があります。その意味では、日本のすべての事柄が研究対象になりえます。文字史料を中心に、絵画や器物、城郭などの建築物、祭をはじめとする民俗資料など、研究視角によって多様な素材が活用できます。それらの史資料をいかに解釈するか、講義・演習を通じて習得し、それをもとにして4年次に卒業論文を執筆してもらいます。卒論のテーマは皆さんの関心に応じて自由に定められます。

3. 他学部、他の論系／コースと比較して、他にはない特徴を教えてください。

古代・中世・近世・近現代の各時代の教員が揃っており、各教員の専門も多岐にわたっていることから、学生の多様な要望に応えることができます。史資料の解釈を通じて、これまで知られていなかった歴史像が浮かび上がってくるところが、日本史コースの魅力です。

4. 演習やゼミで何が学べるか教えてください。

時代によって異なりますが、特定のテーマについて論文や史料を読み、発表・質疑応答することが中心となります。同じ史料に基づいていても論者によって主張に違いがあることを知り、特定の視角からだけでは歴史像に偏りが生まれることを理解します。さまざまな角度から歴史を検証する方法を身につけていきます。

5. 進級に際して、どの程度の知識があることが望ましいでしょうか？また必要になる学力や語学力を教えてください。

数あるコースの中で、なぜ自分は日本史を選択するのか、その動機付けとなる自分なりの発想や関心とは何かを自ら認識し、系統的な読書を心がけてください。

6. 卒業後の進路について、どのような進路または方面（メディア、出版、銀行、公務員など）に進んでいる学生が多いか、現在在籍している学生はどのような方面を希望しているかを、できたら具体的に教えて下さい。

公務員、教員、行政、商社、銀行、製造業、広告・出版、IT企業などのほか、大学院に進学して大学・高校の教員、博物館の学芸員、行政の文化財関係職員になる学生もいます。

7. 推薦図書を各2～10冊程度ご紹介下さい。

①コースの特徴を掴むのにおすすめの本。

②コースの推薦図書。

①

田中史生『渡来人と帰化人』（角川選書）

谷口眞子『武士道考—喧嘩・敵討・無礼討ち』（角川書店）

真辺将之『大隈重信—民意と統治の相克』（中央公論新社）

鶴見太郎『座談の思想』（新潮社）

②

吉村武彦・吉川真司・川尻秋生編『シリーズ 古代史をひらく』全6冊（岩波書店）

早稲田大学編『大隈重信自叙伝』（岩波書店）

8. その他、どのような学生が向いているか、などございましたらぜひご紹介ください。

日本史学はさまざまな証拠となる史料を提示し、それを読み解き、証明を積み重ねることによって、史実を探究する学問です。さまざまな角度から物事をとらえることができる柔らかな思考力、根気よく史料を集める勤勉さ、現代的な物の見方をあてはめるのではなく、その時代を生きた人の発想をできるだけ学び、その視点で史料を解釈する想像力、これらを持った学生が向いていると思います。

9. 卒業研究・ゼミ論・卒論のテーマを教えてください。

卒論の研究テーマは、各自の問題関心に応じて自由に選ぶことができます。以下、最近のものを参考までに列記します。

《古代》

- ・平安時代武官の出身と昇進
- ・相撲節にみる古代の中央と地方
- ・「吉野盟約」に関する基礎的研究
- ・上宮王家滅亡事件と東アジア
- ・奈良時代における文書用紙の利用

《中世》

- ・中世前期における宗教的暴力と民衆
- ・足利学校の創建について
- ・織田信長と徳川家康
- ・南北朝・室町期における鎌倉顕密寺院の諸職補任について
- ・戦国期常総地域における開発
- ・中世前期における「随近在地」と「住人等」

《近世》

- ・久留米藩における藩札の通用実態と諸政策
- ・『土芥寇讎記』にみる近世大名の男色
- ・江戸・明治期における石田三成像の変化
- ・飢饉対策に応用された民間知
- ・ペリー来航を描いた瓦版の正確性の検証
- ・享保期以降の各書肆にみる相板の考察

《近現代》

- ・張作霖爆殺事件報道からみる戦前メディアのあり方
- ・赤い鳥の子ども像
- ・日露戦後から大正期の日本軍における私的制裁
- ・近代日本における豊臣秀吉顕彰と豊国会
- ・近代の祇園祭
- ・近代日本の医療環境と死因について
- ・『西国立志編』からみる自己啓発空間
- ・昭和戦時下の女性美
- ・娼妓からみる近代日本の公娼制度
- ・牛肉の「食材」利用からみる異文化受容
- ・札幌農学校における教育的特徴
- ・明治・大正期の旧制中学校における部活動
- ・1985年から2000年代初頭までのゲームセンターとその利用者
- ・新憲法下における昭和天皇像の再構築
- ・『ハナ子さん』映画化にみるアジア・太平洋戦争期日本の映画統制政策
- ・1939年から1945年における勤務先による「取り持ち」
- ・アジア・太平洋戦争における沖縄戦と本土からの視線
- ・戦後の東北地方における方言教育の変化とその考察

- ・ 中国戦線から日米開戦に至るまでの石原莞爾と武藤章の対立
- ・ 関東大震災の虐殺事件における民衆心理
- ・ 岡山県倉敷市における素隠居の実態とその変遷
- ・ ロンドン海軍軍縮条約締結過程における財部彪とその周縁
- ・ 教会のまち長崎と原爆
- ・ 放送開始期から終戦までにみられるラジオの効力
- ・ 大正から昭和初期における婦人の洋装受容
- ・ 戦争体験と戦後の生活
- ・ 戦時下における障害児へのまなざし

10. コースに関する問い合わせ先、および web の紹介。

日本史コースホームページ <https://wasedanihonshi.wixsite.com/wasedanihonshi>

○アジア史コース○

1. コースの概要を教えてください。

中国・朝鮮半島をはじめとするアジア東部の歴史と文化を学びます。流動化する現在を意識しながら、日本との関係をふまえたアジアの全体像を視野に入れて、新しい歴史像を追究します。

たとえば、昨今の日本と東アジア諸国家間の対立も歴史的な視点から分析すれば単純化しては捉えられない現実がみえてくるでしょうし、解決への糸口もみえてくるはずです。新しい歴史像とは、現実に生きる私たちの過去への問いかけであり、現代が必要とする歴史認識です。

2. どのような研究ができますか？

研究対象は、東アジア（中国・朝鮮半島）を中心に、内陸アジア・東南アジアを含めたアジア東部全域に及びます。漢文をはじめとする多言語の文献史料や、出土文字資料を基礎として、関連する諸分野の研究手法を取り入れながら、古代から現代まで、本格的な東アジア史の研究ができます。

3. 他学部、他の論系／コースと比較して、他にはない特徴を教えてください。

コースに関わる教員は、これまで中国や韓国との国際共同研究を積み重ねてきました。国際学術交流の量と質が豊富なところに研究の特色があります。海外の研究者とフィールドにおいて共同で獲得した新たな資料を「史料化」して積極的に活用するなど、最先端の研究に触れることが出来ます。

4. 演習やゼミで何が学べるか教えてください。

歴史研究の醍醐味は、一次史料から独創的な歴史像を浮かび上がらせることです。東アジアに関する史料の読み方、使い方、組み立て方、歴史叙述の仕方を専門的に学びます。このような作業は応用範囲が広く、深い専門性と広い教養を培います。

5. 進級に際して、どの程度の知識があることが望ましいでしょうか？また必要になる学力や語学力を教えてください。

自分で興味をもった地域と時代に関する本を一冊でも多く読んで関心を高めておいて下さい。できれば関心をもった地域の言語習得の準備をしておいて下さい。

6. 卒業後の進路について、どのような進路または方面（メディア、出版、銀行、公務員など）に進んでいる学生が多いか、現在在籍している学生はどのような方面を希望しているかを、できたら具体的に教えて下さい。

中・高の教諭、大学院進学、公務員、マスコミ、出版、一般企業など多様です。現在、一般企業で活躍する卒業生からは、「社会に出て初めてコースで学んだ意義がしみじみわかる」と言われています。

7. 推薦図書を各2～10冊程度ご紹介下さい。

柿沼陽平『古代中国の24時間—秦漢時代の衣食住から性愛まで』（中公新書）

柿沼陽平『古代中国の裏社会——伝説の任侠と路地裏の物語』（平凡社新書）

森平雅彦編『朝鮮の王朝外交—“ややこしさ”からの気づき』（集英社新書）

李成市『東アジア文化圏の形成』（山川出版社）

小松久男・荒川正晴・岡洋樹『中央ユーラシア史研究入門』（山川出版社）

8. その他、期待する学生像などございましたらぜひご紹介ください。

研究対象には、向き不向きはあるかもしれませんが、アジアの多様な価値に魅力を感じる人ならば、きっと向いているはずです。

9. 卒業研究・ゼミ論・卒論のテーマを教えてください。

「『申報』から見る西洋思想の受容」

「中国古代の干し肉・干し魚」
「『文選』に見える山の表象」
「朝鮮王朝時代の女性の社会的地位の変化とその要因」
「清末上海における善拳の変容」
「古代中国での軍事思想における火攻の位置付け、戦術について」
「古代中国の弓」
「近代紡績産業における在華紡進出とその歴史的意義」
「古代日本における礼楽思想」
「何故ロビンギヤは国民になれないのか」
「中国の『葬儀改革』と伝統的葬儀の変容、および 1950－70 年代におけるその実相」
「『搜神記』が持つ女訓書的性質」

10. コースに関する問い合わせ先、および web の紹介。

<http://www.waseda.jp/bun-tousi/>（東洋史のホームページを兼用）

○西洋史コース○

1. コースの概要を教えてください。

古代から近現代史まで、西洋史を広く深く学ぶコースです。定員は30名なので、少人数でアットホームな雰囲気があります。

2. どのような研究ができますか？

「演習」科目では少人数で、古代～現代、また西洋各国の歴史にかんする文献を講読し、ともに議論したり、また学生諸君に自主的に研究発表をしてもらったりしています。「研究」は各教員の専攻に応じてトピックを決め講義します。

3. 他学部、他の論系／コースと比較して、他にはない特徴を教えてください。

西洋史コース所属の専任教員は4名ですが、文化構想学部所属で西洋史を専攻する専任教員2名さらに非常勤講師の先生がたの協力も得て、時代的にも古代、中世、近現代、また地域的にもイギリス、フランス、ドイツ、イタリア、ロシア、東欧などの歴史を専攻する教員を擁し、その規模は日本でもトップクラスです。西洋史関係ならば、自由に研究テーマが選択できるのが特徴です。

4. 演習やゼミで何が学べるか教えてください。

英語はもちろんですが、場合によってはフランス語、ドイツ語、さらには学生の希望に応じてラテン語、ロシア語などの文献を読むこともあるでしょう。しかしどの授業でも懇切に指導します。また研究書だけでなく、1000年前、1000年前の歴史史料を読むこともあります。史料の読解には高度な知識が求められますが、歴史研究の醍醐味です。初歩から丁寧に指導します。

5. 進級に際して、どの程度の知識があることが望ましいでしょうか？また必要になる学力や語学力を教えてください。

高校レベルの世界史の知識があるのが望ましいです。さらに、基礎となる英語力を高めることが必要です。これはもちろん西洋史の研究上必要なだけでなく、みなさんの将来にとってもきっと役立つでしょう。すでにドイツ語、フランス語、ロシア語、イタリア語、スペイン語などをすでに習っている人は、その力をブラッシュアップしましょう。でも、第二外国語が中国語など、西洋史分野以外の言語という人もたくさんいますので、その点をご心配なく。

6. 卒業後の進路について、どのような進路または方面（メディア、出版、銀行、公務員など）に進んでいる学生が多いか、現在在籍している学生はどのような方面を希望しているかを、できたら具体的に教えて下さい。

マスコミ・出版、一般企業、公務員と多彩です。また、大学院進学者も例年数名ずついます。コースの性格上、在学中に交換留学をしたり、卒業後欧米の大学（院）に留学する人も多く見られます。留学の相談にも喜んでのります。

7. 推薦図書を各2～10冊程度ご紹介下さい。

①コースの特徴を掴むのにおすすめの本。

- ・『ローマ皇帝群像』、アエリウス・スパルティアヌス他著；桑山由文、井上文則、南川高志訳（京都大学学術出版会、2006年）
- ・『軍人皇帝時代の研究：ローマ帝国の変容』、井上文則著（岩波書店、2008年）
- ・『中世ヨーロッパの社会観』、甚野尚志著（講談社、2007年）
- ・『15のテーマで学ぶ中世ヨーロッパ史』、堀越宏一、甚野尚志編著（ミネルヴァ書房、2013年）
- ・『ヨーロッパの政治文化史：統合・分裂・戦争』、森原隆編（成文堂、2018年）
- ・『イギリス議会政治の形成：「最初の政党時代」を中心に』、松園伸著（早稲田大学出版部、1994年）

- ・『ハプスブルク帝国政治文化史：継承される正統性』、篠原琢、中澤達哉編（昭和堂、2012年）
- ・『礫岩のようなヨーロッパ』、古谷大輔、近藤和彦編（山川出版社、2016年）
- ・『歴史学者と読む高校世界史：教科書記述の舞台裏』、長谷川修一、小澤実編著（勁草書房、2018年）
- ・『フォルクと帝国創設：19世紀ドイツにおけるトゥルネン運動の史的考察』、小原淳著（彩流社、2011年）
- ・『夢遊病者たち：第一次世界大戦はいかにして始まったか』1・2、クリストファー・クラーク著；小原淳訳（みすず書房、2017年）
- ・『敗北者たち：第一次世界大戦はなぜ終わり損ねたのか1917-1923』、ローベルト・ゲルヴァルト著；小原淳訳（みすず書房、2019年）

②コースの推薦図書。

- ・『軍人皇帝のローマ：変貌する元老院と帝国の衰亡』、井上文則著（講談社、2015年）
- ・『天を相手にする：評伝宮崎市定』、井上文則著（国書刊行会、2018年）
- ・『12世紀ルネサンスの精神：ソールズベリのジョンの思想構造』、甚野尚志著（知泉書館、2009年）
- ・『中世ヨーロッパの教会と俗世』、フランツ・フェルテン著、甚野尚志編（山川出版社、2010年）
- ・『ローマ教皇庁の歴史：古代からルネサンスまで』、ベルンハルト・シンメルペニツヒ著；甚野尚志、成川岳大、小林亜沙美訳（刀水書房、2017年）
- ・『ヨーロッパ・エリート支配と政治文化』、森原隆編（成文堂、2010年）
- ・ヨーロッパ・「共生」の政治文化史、森原隆編（成文堂、2013年）
- ・『産業社会の発展と議会政治：18世紀イギリス史』、松園伸著（早稲田大学出版部、1999年）
- ・『近世ヨーロッパの東と西：共和政の理念と現実』、小倉欣一編（山川出版社、2004年）
- ・『近代スロヴァキア国民形成思想史研究：「歴史なき民」の近代国民法人説』、中澤達哉著（刀水書房、2009年）
- ・『ビスマルク』上下、ジョナサン・スタインバーグ著；小原淳訳（白水社、2013年）
- ・『マルクス：ある19世紀人の生涯』上下、ジョナサン・スパーバー著；小原淳訳（白水社、2015年）

8. その他、どのような学生が向いているか、などございましたらぜひご紹介ください。

歴史、文化、社会全般に関心のある学生。将来、国際社会で活躍することを希望する学生。教職、研究職を目指す学生。

9. 卒業研究・ゼミ論・卒論のテーマを教えてください。

過去の例

仏領植民地サン＝ドマングが本国に与えた影響について

ビザンツ帝国のテマ制度

ワルシャワ蜂起をめぐる諸動向

キリスト教社会における同性愛とその影響

ロラン夫人の人物像に関する一考察

古代ローマ市における食糧供給と市民

フランス革命期から第三共和政期における教育の様相

近代フランスにおける犯罪と新聞

中世の下層労働者とその救済

19世紀イギリスの教育

『ギルガメシュ叙事詩』に見る古代シュメル人の死生観

連合期のスウェーデン・ノルウェーにおける相互関係とスカンジナビア主義

テューダー朝における都市の繁栄と没落

近代イギリス工業都市

ジョン王とマグナ・カルタ

ヴィクトリア朝のレディ・トラベラー
マリー・アントワネットと革命
中近世ヨーロッパの魔女
被護王国とローマ帝国
17 世紀イングランドにおけるユダヤ人の変容
エリザベス 1 世とメアリ・スチュアート
魔女と悪魔学
第一次大戦後の東プロイセン及びバルト地域における分離主義運動
保守党の社会帝国主義
19 世紀フランスの消費生活と百貨店
「ガストロノミー」を支えた 2 人の美食家

10. コースに関する問い合わせ先、および web の紹介。

何か質問等ありましたら、西洋史コース室（33 号館 6 階）までお気軽にお問い合わせください。
文学部西洋史コースの公式サイト <https://wasedawh0603.wixsite.com/home>
電話番号 03-5286-3579

○考古学コース○

1. コースの概要を教えてください。

考古学は、発掘調査などのフィールドワークによって得られたデータを使用して、人類の過去の歴史や社会生活を復元する学問分野です。文献研究とは異なるアプローチによって、過去の人類の社会に迫ることができます。また、卒業後に、都道府県、市町村の文化財担当職員や博物館学芸員、国公立研究機関の研究者や埋蔵文化財専門職を目指す学生のために、専門的な教育も実施しています。こうした専門的な教育が受けられる考古学コースに興味のある学生は、これまでの経験や学習の履歴を問わず、誰でも進級が可能な定員 30 名のコースです。

2. どのような研究ができますか？

日本では考古学は、歴史学のなかに位置づけられています。考古学という手法を駆使して旧石器時代から近代に至るまで広範な分野が研究対象です。対象フィールドは、日本列島ばかりではなく、韓国、中国、シルクロード、東南アジア、パプアニューギニア、オセアニア、エジプト、中南米などを含む世界各地に及んでおり、各地を専門とする教員が指導します。日本の国内では旧石器・縄文・古墳時代のフィールドを毎年実施しているほか、海外でも中国、カンボジア、パプアニューギニア、エジプト、ホンジュラスなどで担当教員による調査が実施されており、熱心に学べば、学部生から海外調査に参加することも可能です。

3. 他学部、他の論系／コースと比較して、他にはない特徴を教えてください。

考古学コースは発掘・測量・実測などの技術を修得するための実習・演習が数多く置かれていることが特徴です。こうした発掘技術の習得は、独学で学ぶことが困難なものです。将来、発掘調査の成果を使って研究を進めていきたい学生には必須の課程を置いています。夏休みには、泊まりがけで2年生の発掘実習を行っており、2026年は長野県須坂市で縄文時代遺跡の調査を実施しました。

早稲田大学考古学は長い伝統を持っています。日本から海外まで、大学・博物館・研究機関・行政に先輩や関連研究者が数多くいて、バックアップしてくれます。自分自身の手で歴史を掘り出して解明していくという醍醐味は、他の学問分野では決して体験することは出来ません。あなたも、この熱い体験を味わってみませんか？

4. 演習やゼミで何が学べるか教えてください。

考古学は物質資料を扱って歴史を組み立てる学問です。時代は人類の誕生から近現代に至るまで、対象地域は人の住んだ地球上のあらゆる場所です。演習やゼミで個別の少人数指導を受けられるほか、測量技術や発掘技術などの野外調査に必要な基本をしっかりと学習してもらいます。出土遺物の取扱い、復元、分析法なども学びます。

5. 進級に際して、どの程度の知識があることが望ましいでしょうか？また必要になる学力や語学力を教えてください。

専門知識は、コースに入ってから学んでも、決して遅いということはありません。ただし、勉強意欲だけは十分持っていていただきたいと思います。日本以外の地域を対象にしようとする人は、英語、中国語などの基礎外国語の学習をまずしっかり実施してください。基礎的知識を確実なものとして持っていることも重要です。日ごろから新聞や読書など活字媒体に触れていただくと嬉しいです。最初から専門的な知識を身に着けるのではなく、古典を中心とした一般に名作と呼ばれる文学作品や、哲学、宗教などの名著も、一冊でも多く読んでおかれるとよいでしょう。

6. 卒業後の進路について、どのような進路または方面（メディア、出版、銀行、公務員など）に進んでいる学生が多いか、現在在籍している学生はどのような方面を希望しているかを、できたら具体的に教えて下さい。

文化財専門に進む人を養成しています。ただし、何にでも進路を見いだせます。考古学は歴史を学びつつ、オールラウンドに何でもこなし、興味を持つからだと思います。例を挙げれば、博物館学芸員、

公務員、教員、報道、出版などですが、総合商社、住宅、流通、外資系銀行、証券会社などに行く卒業生もいます。また、大学院へは 5 名前後進みます。早大ばかりでなく他の国立大学へも進学しています。

7. 推薦図書を各 2 ～ 10 冊程度ご紹介下さい。

①コースの特徴を掴むのにおすすめの本。

②コースの推薦図書。

入門篇；菊池徹夫 『考古学の教室』 平凡社新書 2007 年

専門向き；コリン・レンフルー、ポール・バーン著、松本ほか訳 『考古学』 東洋書林 2007 年

8. その他、どのような学生が向いているか、などございましたらぜひご紹介ください。

何にでも熱心な学生、フットワークの軽い学生を特に期待します。好奇心旺盛な人間も大歓迎です。考古学コースでは、基礎体力と基礎学力のある学生の進級を特に望んでいます。

9. 卒業研究・ゼミ論・卒論のテーマを教えてください。

相模野台地における尖頭器石器群の研究

オホーツク文化期の動物意匠遺物

コックデイチュナン窯跡出土クメール瓦の軒先瓦にみる技術的特徴

青森県三内丸山遺跡における集落の盛衰の要因

バダリ文化とナカダ文化の関連性

縄文時代の死生観

相模野台地における有樋尖頭器の再検討

房総地域における後期終末期古墳出土の鉄鏃

続縄文時代における銚頭の研究

縄文時代におけるサンショウ属植物とエゴマの出土地域の比較

立川ロームⅩ層石器群の石刃技術

護符からみた古代エジプト古王国時代の埋葬習慣

北白川 C 式・中津 I 式と初期称名寺式の系統関係

アンコール・ワットにおけるリンテルの様式的研究

ヌビア型ルヴァロワ技術について

縄文時代後・晩期関東地方の植物食と縄文衰退論

古本州等の白滝型細石刃石器群について

古代エジプトのミイラマスクにおける「顔」の表現

中世墓から見る北海道島

旧石器時代のキルサイト

古代エジプト古王国時代のメンフィス地域における赤色土器の様相と社会的意義

アイヌの動物送り儀礼

杉久保系石器群について

古代オリエント地域におけるスカラベ印章の社会的受容の研究

戦跡考古学の歩みと戦争遺跡の未来

古墳時代中期における炉と竈の変化とその背景

古代エジプト中王国時代における儀礼用杖の副葬習慣

下総台地の旧石器遺跡

日韓における準構造船の構造とその分類

古代ギリシアのアテナイ周辺におけるバイリンガル陶器の実態

10. コースに関する問い合わせ先、および web の紹介。

考古学コース HP <https://assoc-arch-w.w.waseda.jp>

39 号館 1 階の考古学研究室へ、見学を兼ねていつでも訪ねてきて下さい。

○中東・イスラーム研究コース○

1. コースの概要を教えてください。

中東やイスラームの現在・過去・未来を見据えた学問を志し、独創的で世界発信を続ける研究者や、地球大に活躍する社会人を育成することを使命としています。

2. どのような研究ができますか？

「中東・イスラーム」の「中東」の部分は地域空間概念であり、中東に関連する事柄であれば、イスラーム以外についても学べることを示しています。たとえば、中東のキリスト教徒やユダヤ教徒についても学べます。また、「イスラーム」の部分は、イスラームに関連する事象であれば、世界中いかなる地域の事例であっても学ぶことができることを示しています。例えば、欧米やアジア、日本のムスリムについての研究も含まれます。

3. 他学部、他の論系／コースと比較して、他にはない特徴を教えてください。

中東・イスラームに関連して、グローバルな視野のもとでの研究・教育を重視します。そして、早大と中東現地の研究者・研究機関、そして欧米などの研究機関をトライアングルに連結し、研究・教育を実践しています。また、留学や現地旅行、語学の学習も支援しています。

4. 演習で何が学べるか教えてください。

研究の方法論は多様で、とりわけ学部生には「自由」に、単数・複数の方法論を駆使していただき、研究対象を深く掘り下げてもらいたいと思います。メディア報道に流されず、その背後にある物事を複眼的に見抜く力を養います。

5. 進級に際して、どの程度の知識があることが望ましいでしょうか？また必要になる学力や語学力を教えてください。

できれば、中東やイスラーム関連の授業を一年生のときに受講し始めておくことをお奨めします。また、アラビア語の学習は大きなプラスとなりますが、進級の条件では全くありません。それは、アラビア語以外の言語を用いて研究する学生もいると想定しているためです。

6. 卒業後の進路について、どのような進路または方面(メディア、出版、銀行、公務員など)に進んでいる学生が多いか、現在在籍している学生はどのような方面を希望しているかを、できたら具体的に教えて下さい。

国家公務員、マスコミ(NHK や各種新聞など)、出版、金融、メーカー、エネルギー、IT 産業、商社、教員、大学院(海外も含む)など、実に多様です。海外勤務を目指す人も少なくありません。

7. 推薦図書を各2～10冊程度ご紹介下さい。

- ・ガッサーン・カナファーニー『ハイファに戻って／太陽の男たち』河出文庫
- ・エドワード・サイード『オリエンタリズム』平凡社ライブラリー
- ・アミン・マアルーフ『アイデンティティが人を殺す』ちくま学芸文庫
- ・タラル・アサド『宗教の系譜』岩波書店
- ・井筒俊彦『意識と本質：精神的東洋を求めて』岩波文庫
- ・大塚和夫『イスラーム的：世界化時代の中で』講談社学術文庫
- ・イブン・バットゥータ『大旅行記』平凡社東洋文庫
- ・ライラ・アブー＝ルゴド『ムスリム女性に救援は必要か』書肆心水
- ・岡真理『増補版 ガザとは何か』だいわ文庫

8. その他、どのような学生が向いているか、などございましたらぜひご紹介ください。

既存の学問に飽き足らない知的好奇心を持つ人や、物事を深く掘り下げて考える人が多く来てくれればと願っています。旅好き、人間好きも向いているかも知れません。

9. 卒業研究・ゼミ論・卒論のテーマを教えてください。

コースホームページの文学部コース案内<<https://prj-islam.w.waseda.jp/teaching02-2/>>で公開しています。ぜひ、のぞいてみてください。

10. コースに関する問い合わせ先、および web の紹介。

コース室が 39 号館 3 階にありますので、ぜひ、お立ち寄りください!! また、コースのホームページ<<https://prj-islam.w.waseda.jp/>>や、X も公開しています。



詳細は、必ず、ホームページ

<https://www.waseda.jp/flas/hss/students/grades/>

学部掲示板、オリエンテーションなどで確認してください。

アンケートにご協力ください

次年度以降の編集の参考とさせていただくため、感想、ご意見をお寄せください。

(1年生に限らず、みなさま、ご協力ください)



早稲田大学生協戸山キャンパス(戸山カフェテリア・戸山店)の 情報はこちらから

取り扱い商品など



営業時間



2026 年 10 月発行

編集・発行

早稲田大学生生活協同組合